



取扱説明書

ハードウェア／ソフトウェア編

Z 本体取扱説明書

目次

第 1 章 Z ご使用にあたって

・ 製品仕様	4
・ 基本付属品	6
・ 基本操作方法	10
・ Android OS の使用方法	13
・ 本体への電源供給方法	17
・ 充電について	18
・ 車両への接続方法	20

第 2 章 製品の登録方法

製品の登録方法	21
---------	----

第 3 章 Z の基本操作

・ メインメニューとシステムツール	24
・ ユーティリティ	29
・ 本体設定	31

第 4 章 メイン機能

・ 車種選択	37
・ システムサーチ	42
・ 自己診断	45
・ データ表示	51
・ アクティブテスト	63
・ 保存データ	65
・ 作業サポート	65
・ 識別情報表示	68

第 5 章 OBD-II 診断

- OBD-II 診断 69

第 6 章 サポート機能

- サポート機能の使い方 75

第 7 章 リモートサポートおよび J2534

- リモートサポート 78
- J2534 パススルー機能 80

第 8 章 アップデートおよび開発ログ

- アップデート 84
- 開発ログ 88

第 9 章 保存データ

- データの保存 92
- データの読込み 95
- データのバックアップ 102
- データの印刷 104

第 10 章 診断レポート

- 診断レポート機能 112
- レポートを作成する 113
- その他機能 119

第 11 章 付録

- Z の期限付き保証 125
- 安全規格 127
- 使用済み機器の廃棄 130
- 故障かな？と思ったら 131

第 1 章 Z ご使用にあたって

1.1. 製品仕様

Z 本体仕様



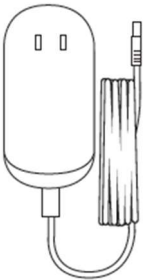
仕様	
カテゴリー	仕様
CPU	Octa Core Processor 2.0 GHz
OS	Android 9
メモリー	3G / Internal 32G ※
外部メモリー	マイクロ SD カード
LCD	8.0 インチ フル HD (1920 x 1200)
本体	静電容量方式タッチスクリーン、電源ボタン、音量 + ボタン、音量 - ボタン
カメラ	8M Pixel, オートフォーカス, LED フラッシュライト
オーディオ	ラウドスピーカー、マイク、3.5pi 標準イヤフォンジャック
バッテリー	リチウムイオン 3.8V 3200 mAh
電圧	DC 8 ~ 32V
内臓センサー	照度センサー、近接センサー、ジャイロセンサー、加速度センサー
本体サイズ	225 x 136 x 33 mm
重量	800g

※本機の内蔵メモリー（32GB）の半分（16GB）は、診断ソフトウェアと今後のアップデート用に割り当てられています。そのため、実際に使用可能なメモリーサイズは、設定中のストレージに表示される容量よりも少なくなる場合があります。

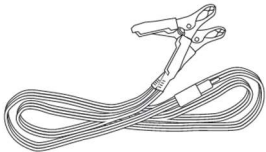

コネクティビティ	
外部ポート	USB 1ea, USB C 1 ea.
ネットワーク	RJ45 イーサネット, Wifi 802.11 a/b/g/n, Bluetooth 4.2


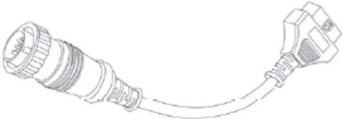
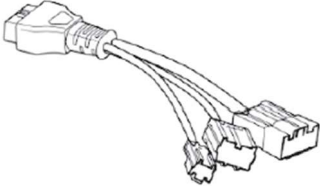
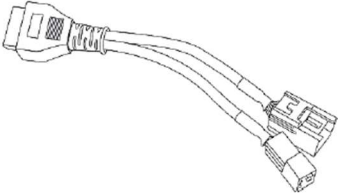
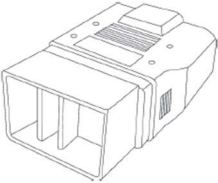
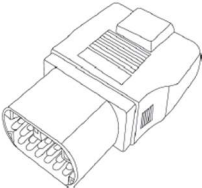
車両通信規格
CAN (高速、低速、シングルワイヤード)、ISO-9141、ISO-9141-CARB、KWP-2000、SAE-J1708、SAE-J1587、J1850(PWM/VPW)、Melco Pull-Down

1.2. セット内容

部品図	名称	備考
	Z 本体	アクセサリ/付属品 ・ DLC メインケーブル ・ タッチペン ・ ハンドストラップ ・ USB ケーブル ・ 液晶保護フィルム
	シガライタケーブル	車両シガライタソケットより電源を供給する際に使用します
	AC/DC アダプター	本機へ外部電源を供給する際に使用します

オプション品

	バッテリーケーブル	本機へ外部電源を供給する際に使用します
	BMW カプラ	BMW 専用カプラ装備車を診断する際に使用します

	AUDI/VW カプラ	AUDI/VW 専用カプラ装備車を診断する際に使用します
	BENZ カプラ (14Pin)	BENZ 専用カプラ装備車を診断する際に使用します
	いすゞカプラ	いすゞ専用カプラ装備車を診断する際に使用します
	日野カプラ	日野専用カプラ装備車を診断する際に使用します
	トヨタカプラ (角型)	トヨタ専用カプラ装備車を診断する際に使用します
	トヨタカプラ (丸型)	トヨタ専用カプラ装備車を診断する際に使用します

	マツダカプラ	マツダ専用カプラ装備車を診断する際に使用します
	スバルカプラ	スバル専用カプラ装備車を診断する際に使用します
	ホンダカプラ	ホンダ専用カプラ装備車を診断する際に使用します
	日産カプラ	日産専用カプラ装備車を診断する際に使用します
	三菱カプラ	三菱専用カプラ装備車を診断する際に使用します

1.3. 基本操作方法

本体各部の機能



No.		説明
①	電源ボタン	ボタン長押し: 本体電源オン/オフ ボタン短押し: スリープ/スリープ解除
②	音量ボタン	メディア/アラーム音量の調節
③	DLC 接続端子	車両通信用の DLC ケーブル接続端子
④	外部デバイス接続端子 1 	(A) 車載バッテリー / AC/DC アダプター用 電源接続端子
		(B) ネットワーク接続用 RJ45 イーサネット端子
⑤	外部デバイス接続端子 1 	(A) Type-C デバイス接続端子
		(B) USB デバイス接続端子
		(C) micro SD カード
⑥	イヤホン接続端子	
⑦	USB Type-C	
⑧	背面カメラ	
⑨	スピーカー	
⑩	タッチペン	
⑪	環境光センサー	

● ハードウェアボタンの使用方法

A. 電源ボタン

本体上部にある電源ボタンで本体の電源を ON/OFF できます。



■ 電源 ON

電源ボタンを長押し(2～3 秒間)すると ON になります。

■ 省電力モード (スリープモード)

本体の電源が ON の時に、電源ボタンを短押しすると省電力モードになります。
再度電源ボタンを短押しすると、通常モードに戻ります。

■ 再起動/スクリーンショット

電源ボタンを長押し(2 秒以上)すると、[電源 OFF]または[再起動]、
[スクリーンショット]を選択するポップアップ画面が表示されます。

- 電源 OFF

すべてのアプリケーションを閉じて本体の電源を切ります。

- 再起動

すべてのアプリケーションを閉じて本体を再起動します。

- スクリーンショット

現在の画面のスクリーンショットを撮影し、イメージフォルダーに保存します。



B. 音量ボタン

音量を変更できます。

音量は右図のように表示されます。

ポップアップメニュー下部にある設定アイコンを押すと、メディアやアラーム、通知の音量を変更することができます。



1.4. Android OS の使用方法

⚠ 本製品はマルチメディアタブレットやスマートフォンではありません

Android システムを搭載している他のデバイスと異なり、本製品は車両診断用に設計・開発された専用の Android OS を搭載しています。

本製品をサードパーティーのコンテンツを再生する目的での使用、OS の設定やセキュリティ機能の変更・修正などは絶対におこなわないでください。システム異常や本体の異常を引き起こす可能性があります。



⚠ Google Play ストアでのアプリインストール制限

上記の理由のため、弊社によってインストールされているもの以外のアプリケーションを Google Play ストアからインストールすることは制限されています。（任意のプリンタードライバーは除く）本製品にサードパーティー製アプリケーションをインストールした場合、製品保証が無効になる場合があります。

● Android システムの基本機能ボタン

ホーム画面下部に表示されている機能ボタンの使用方法



A. キャンセルボタン

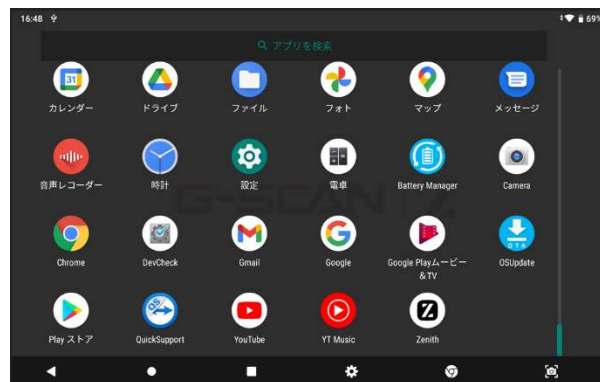


現在の画面を閉じて、前の画面に戻ります。

B. ホームボタン



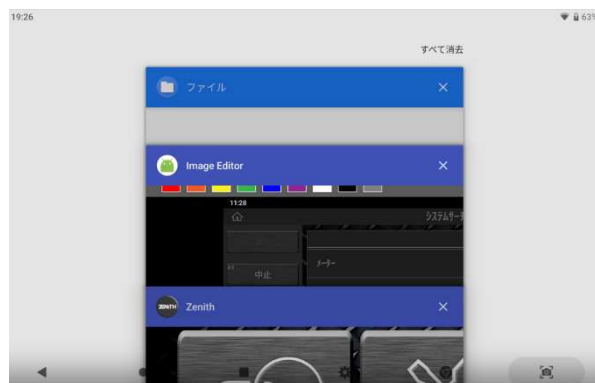
ホーム画面に戻ります。本製品の診断プログラムを使用する際は、[Z] のアイコンを選択してください。



C. 実行中アプリケーションボタン



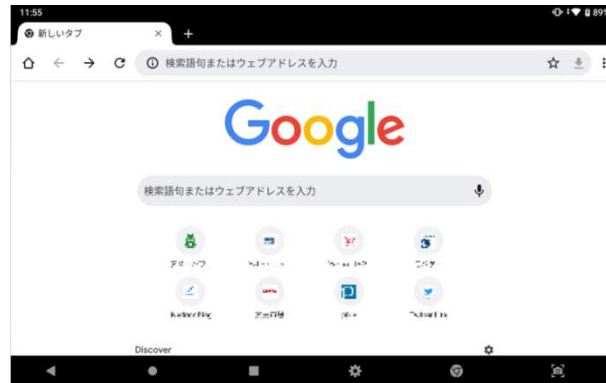
バックグラウンドで実行中のアプリケーションや最近実行していたアプリケーションを表示します。上下にスクロールしながら Z のアプリケーションを選択すると、本製品の診断プログラムに戻ります。



D. ウェブブラウザボタン



ウェブブラウザを起動します。



E. 設定ボタン



本体の設定や環境設定をおこないます。



F. スクリーンキャプチャボタン



スクリーンキャプチャおよび画像編集をおこないます。

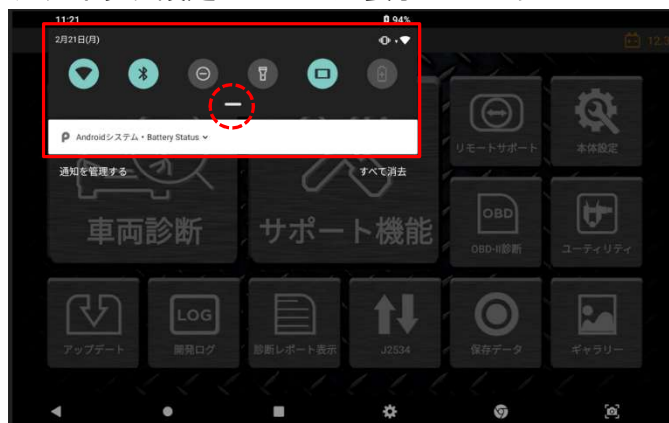


撮影したスクリーンキャプチャの編集や印刷ができます。

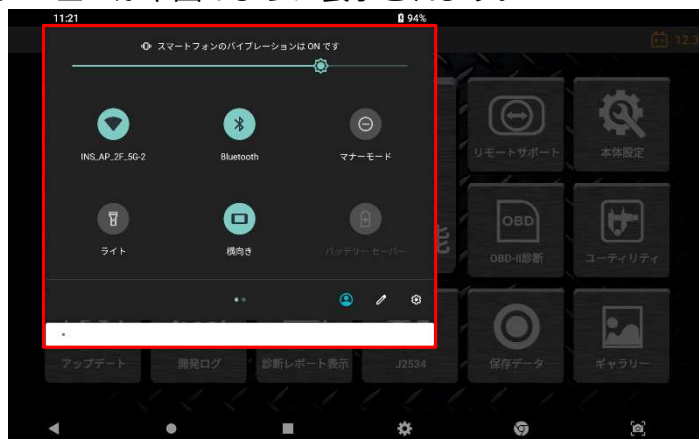


● クイック設定メニュー

画面上部のヘッダーエリアを指でダブルタップするか、そのエリアをタップして下にスワイプすると、クイック設定メニューが表示されます。



画面中央の[—]をタップし、そのまま下にスワイプするとドロップダウンメニューとクイック設定メニューが下図のように表示されます。

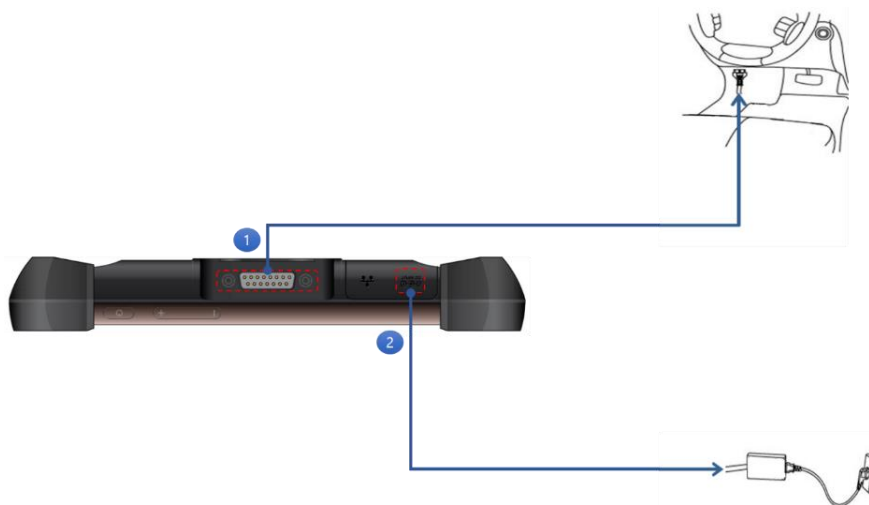


基本的な Android システムの設定を変更できます。

Wi-Fi、Bluetooth、マナーモード、ライト、自動回転、バッテリーセーバー、機内モードなど、“設定”メニューを選択することなく変更できます。

1.5. 本体への電源供給方法

本体に電源を供給する方法は以下の 2 通りあります。



1 診断コネクタから電源を供給する

1. 本製品のメインケーブルを車両側診断コネクタに接続します。（必要な場合は、変換ケーブルを使用します）。
2. IG キーを ACC または ON 位置にすると電源が供給されます。IG キーが OFF であっても、診断コネクタから電源が供給されます。診断通信のためには IG キーを ON にしてください。

工業規格により、OBD-Ⅱに準拠した車両はすべて診断コネクタから電源を供給するように設計されています。

※車両側診断コネクタは、運転席から 1m 以内に取り付けることが推奨されています。通常はダッシュボードの下にありますが、例外もあります。

⚠ 注意

本製品を車両に接続する場合は電源を ON にしてから接続してください

※電源を ON にせず車両または AC/DC アダプターに接続した場合、充電状況をお知らせする画面が表示され通常よりも起動が遅くなります。

2 家庭用電源（AC/DC アダプター）から電源を供給する

1. AC/DC アダプターの DC ジャックを本製品の電源接続端子に接続してください。
2. AC/DC アダプターの AC プラグを AC コンセントに接続してください。

⚠ 注意

必ず本製品付属の AC/DC アダプターを使用してください。付属以外の AC/DC アダプターの使用は製品保証の対象外となります。

1.6. 充電について

● 車両バッテリー電圧表示

本製品にはリチウムイオンバッテリーパックが基本電源として装備されており、外部から電源を供給しない状態でも使用することが可能です。

ですが、長時間外部電源を使用せずにバッテリーのみで使用するよう設計されていません。通信を安定させるため、車両診断時は外部電源に接続した状態での使用をお勧めします。



● バッテリーレベル表示

外部電源に接続せずに本製品を使用する場合は、バッテリーが十分充電されていることを確認し、充電レベルが 20%以下にならないように注意してください。バッテリーレベルは画面右上に表示されています。

- バッテリー残量が少なくなると、本機は警告音を鳴らし、低電力メッセージを表示します。
- 充電中は、本体左下にある充電 LED が赤く点灯します。
- 充電が正常に行われていない場合は、充電 LED が点滅します。
- バッテリーが完全に充電されると、充電 LED が消灯します。



● バッテリー交換

バッテリーは充電を繰り返すうちに性能が低下する消耗品です。充電性能の低下や、ふくらみなどの変形が見られた場合にはバッテリーの交換をお勧めします。本体背面にある4本のネジを外してバッテリーカバーを開け、バッテリーを持ち上げて取り出します。新しいバッテリーを所定の位置に挿入し、カバーを閉じてネジを締めます。



1.7. 車両への接続方法

● DLC メインケーブルを本体に接続する

DLC メインケーブルを本体の DLC 接続端子に接続し、2つのメインネジで固定して接続を安定させます。ネジを固定する際は力を入れすぎないように注意してください。



● 車両と接続する

本体に接続されている DLC メインケーブルを車両側診断コネクタに接続します。一部の古い車両や商用車には、形が異なる OBD 非標準コネクタタイプが使用されている可能性があります。車両が OBD-II に準拠していない場合、一致する変換ケーブルを使用して車両側診断コネクタに接続してください。

診断コネクタは車両側診断コネクタに合わせて設計されており、他の診断機に付属している診断コネクタと同様の形をしています。しかし内部配線や回路が異なり、本体付属のコネクタと一致しない可能性があります。本機を車両に接続する際は、付属の診断コネクタ以外は絶対に使用しないでください。またサードパーティー製のコネクタも使用しないでください。



間違ったアダプターを使用すると、通信異常だけでなく、車体や本体への損傷を引き起こす可能性があります。それにより生じた損害について、当社は一切の責任を負いません。また、本体の保証も無効となりますのでご注意ください。

第2章 製品の登録方法

本製品をご利用いただくには事前の「ユーザー登録」が必要です

本機をインターネットに接続してください。有線、Wi-Fi どちらでも接続可能です。



① ホーム画面から[本体設定]を選択します。

シリアル番号	SA001222(YmQ0ZD)
ファームウェアバージョン	1.85, 1.12, 1.95
ソフトウェアバージョン	21.10.20.01
本体OS	20210905

② シリアル番号、セキュリティーコードを控えめす。

※セキュリティーコードはシリアルナンバーの後ろのカッコ内に記載されています。

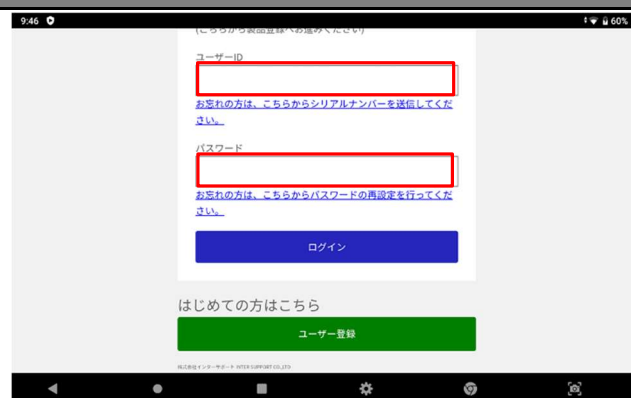


③ ホーム画面から[車両診断]を選択し、どのメーカーでも構いませんので選択します。



- ④ ポップアップ画面が表示されたら、[「製品登録」または「ユーザー登録」]を押します。

既にユーザー登録している製品をお持ちの場合



ユーザーID、パスワードを入力し、[ログイン]を押してください。

「ユーザー登録」よりお進みください。

【製品の追加登録について】

ログイン後、すでにお持ちの製品情報が表示されます。

あらかじめ控えておいたシリアルナンバー、セキュリティコードを入力し、[確認]を押します。

登録完了後、ソフトウェアアップデートを実施いただくと使用可能になります。

新規登録の場合



- ① 以下の項目を入力します。

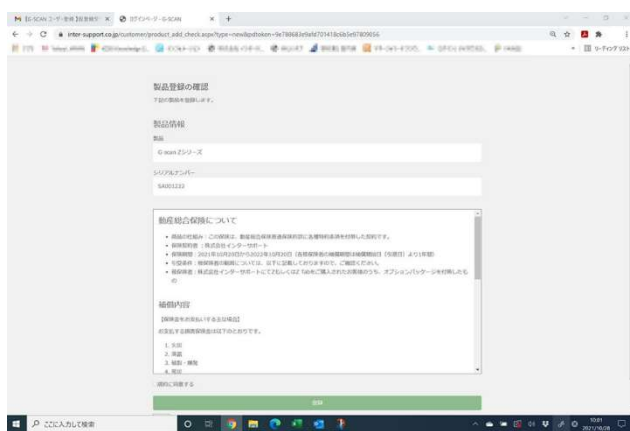
- あらかじめ控えておいたもの
 - ・シリアルナンバー
 - ・セキュリティコード

- 新たに設定するもの

- ・ユーザーID
- ・パスワード
- ・普段お使いのメールアドレス



② 仮登録が完了すると、登録したメールアドレス宛に本登録用のメールが送られます。その中にある URL を選択します。



③ 必要事項を入力し、[確認] を押します。

製品登録内容に誤りがないことを確認し、[登録]を押します。

保険(※)をお申込みいただいている場合、規約が表示されますので「規約に同意する」に[✓]を入れてください。

※スタンダードプランには必ず付いてきます。

④ 登録完了後、ソフトウェアアップデートを実施いただくと使用可能となります。



第 3 章 Z の基本操作

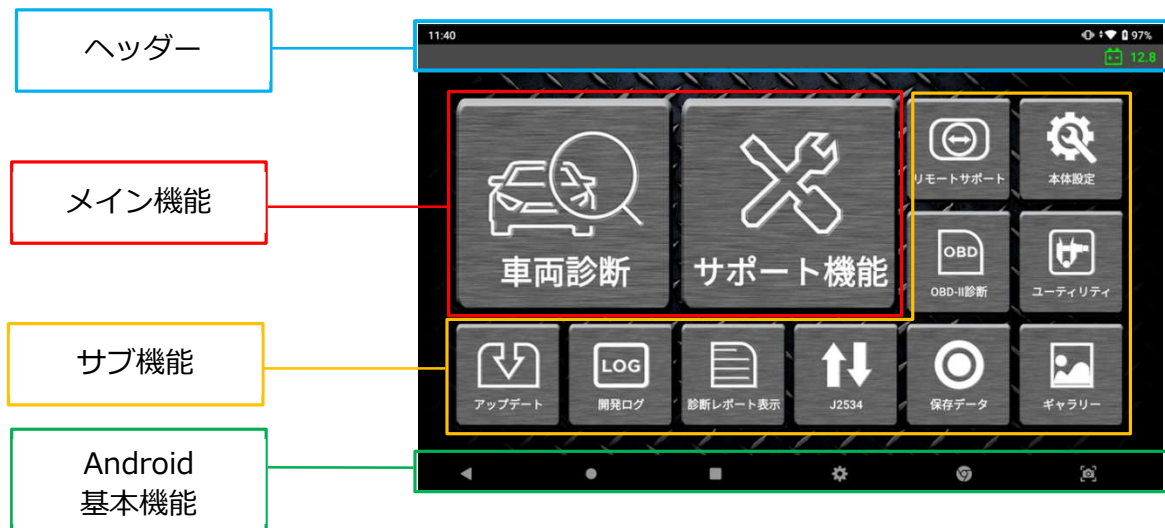
3.1. メインメニューとシステムツール

※製品の性能や使いやすさ向上のため、予告なくグラフィックの出力やメニュー構成などのユーザーインターフェースを変更・更新する場合がありますので予めご了承ください。

本体の電源を入れ、アプリケーション一覧で [Z]（診断プログラム）を選択すると、下図のようなメインメニューが表示されます。

● メインメニュー

メインメニューは、4つのセクション(ヘッダー、メイン機能、サブ機能、Android 基本機能)で構成されています。



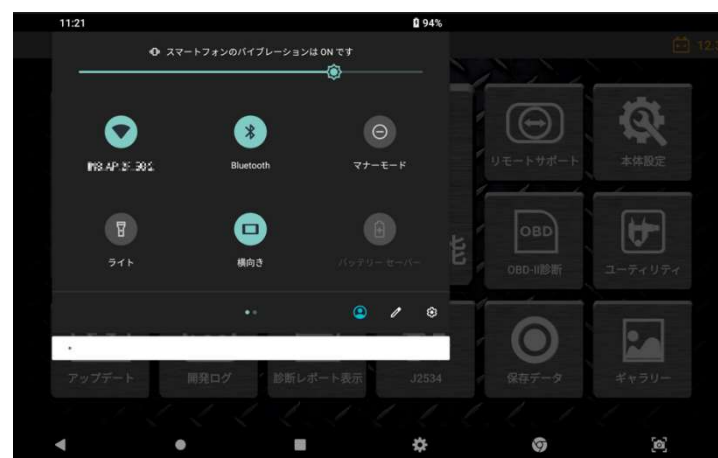
● ヘッダー

	システム通知	システムステータスで変化または変更を検知するとヘッダー左側にアイコンが表示されます。
	診断コネクタ バッテリー ステータス	車両から電源が供給されるとヘッダー右側に診断コネクタバッテリーステータスが表示されます。
	システム状態	Wi-Fi や Bluetooth の接続状態、バッテリー充電ステータスを含む本体のシステムステータスがヘッダー右側に表示されます。

画面上部のヘッダーエリアを指でダブルタップするか、そのエリアをタップして下へスワイプすると、システム通知の詳細が表示されます。





ポップアップ通知の上部をタップするとシステム設定メニューが表示され、システムの基本設定を確認したり、変更したりすることができます。



● メイン機能






タイトル	説明
 車両診断	自己診断、データ表示、アクティブテスト、識別情報表示と、各メーカー用の様々な作業サポートを含むメーカー固有の診断機能を実行します。
 サポート機能	整備上よく使用する機能がピックアップされています。作業の効率化を図るための機能です。

● サブ機能



タイトル	説明
 ユーティリティ	ユーザーガイド、OBD-II 故障コード系統名検索、整備技術情報、ボイスレコーダー、簡易電卓機能などの様々なユーティリティプログラムを起動します。
 本体設定	本機のバージョン確認と設定の変更ができます。
 ギャラリー	保存したスクリーンショットや写真、ビデオを表示します。
 リモートサポート	TeamViewer アプリケーションを使用し、他のデバイスから本機をリモートで操作します。
 OBD-II診断	ISO9141-2、ISO14230 (KWP2000)、ISO15765-4 (CAN バス)、 SAE J1850 VPW、SAE J1850 PWM に準拠した車両で一般的な OBD-II 診断機能を実行します。
 保存データ	保存したデータを確認します。
 J2534	本機をメーカー純正機と車両間のパススルーデバイスとして使用し、メーカー純正のソフトウェアで診断します。

 診断レポート表示	作成した診断レポートを表示します。
 開発ログ	取得した開発ログ一覧を表示します。
 アップデート	インターネットに接続して最新のソフトウェアをダウンロードします。

● Android 基本機能

画面下のメニューは Android システムの標準機能です。詳細は[第 1 章 Z ご使用にあたって]内の[1.4. Android OS の使用方法]を参照してください。



3.2. ユーティリティ

本製品のユーザーガイド、OBD-II 故障コード系統名検索、整備技術情報、ボイスレコーダー、簡易電卓機能などの様々なユーティリティプログラムを起動します。



● 通信ライン点検機能

DLC メインケーブルの通信ラインで電圧変化を点検し、画面でインジケータランプを点滅させて信号を受信したかどうか表示します。

インジケータランプの点滅は、通信ラインの電圧変化を示しています。通信ライン点検により車両の通信ラインのテストをおこなえます。しかし、本機能は通信ラインを直接測定するものではありません。本体のデータリンクケーブルにより間接的に測定します。したがって、測定差を考慮する必要があります。

テスト条件

車両のイグニッションキーを ON 位置にします。



通信ライン点検機能設定

通信ピン割当てのプリセットは、通信プロトコルの最も一般的で標準的なタイプの車両に適合するように設定されています。しかし、通信に割当てられた実際のピンは車両によって異なります。その場合は[設定]を選択し、診断したい車両の整備書を参照して通信ラインを設定してください。

項目	説明
H 通信線	OBD-II コネクタのピン数を選択し、H または L バス信号ライン用通信ラインとして割り当ててください。
L 通信線	
リセット	通信ライン設定をリセットします。
保存	通信ライン設定の変更を保存します。
閉じる	通信ライン設定の変更を取消します。

高速 CAN 通信

高速 CAN バスシステムの通信ライン点検をおこないます。点滅しない場合は、[設定]メニューでテスト条件(イグニッションキー ON 位置)および OBD-II コネクタの PIN 割当てを確認し、回路をよく点検してください。



低速 CAN 通信

低速 CAN バスシステムの通信ライン点検をおこないます。点滅しない場合は、[設定]メニューでテスト条件(イグニッションキーON 位置)および OBD-II コネクタの PIN 割当てを確認し、回路をよく点検してください。



シングルワイヤ CAN

シングルライン CAN バスシステム装備車の通信ライン点検をおこないます。点滅しない場合は、[設定]メニューでテスト条件(イグニッションキーON 位置)および OBD-II コネクタの PIN 割当てを確認し、回路をよく点検してください。



J1939

SAE J1939 に準拠した商用車の通信ライン点検をおこないます。点滅しない場合は、[設定]メニューでテスト条件(イグニッションキーON 位置)および OBD-II コネクタの PIN 割当てを確認し、回路をよく点検してください。



J1850(PWM(パルス幅変調))

J1850(PWM(パルス幅変調))通信ラインを点検します。点滅しない場合は、[設定]メニューでテスト条件(イグニッションキーON 位置)および OBD-II コネクタの PIN 割当てを確認し、回路をよく点検してください。



● ユーザーガイド

本製品の「かんたん操作ガイド」および「ソフトウェア使用許諾契約書／著作権と免責事項」を閲覧できます。



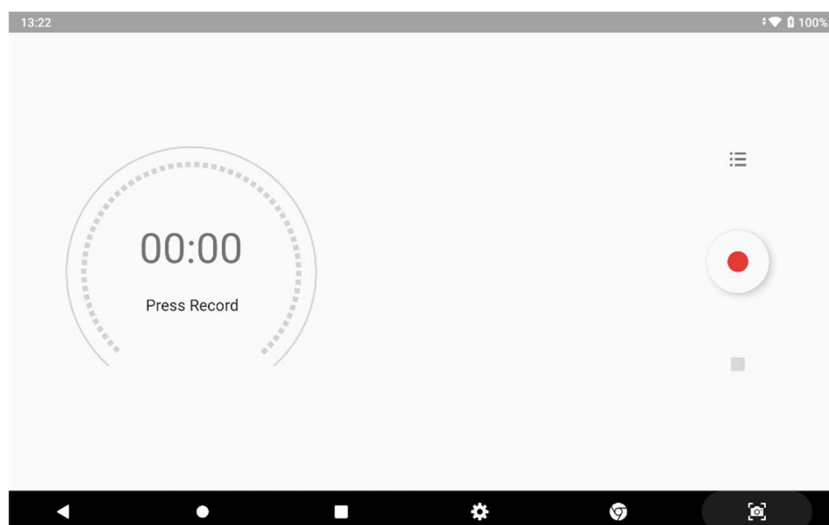
● OBD-II 故障コード系統名検索




OBD-II の一般的な故障コードを検索できます。



● ボイスレコーダー

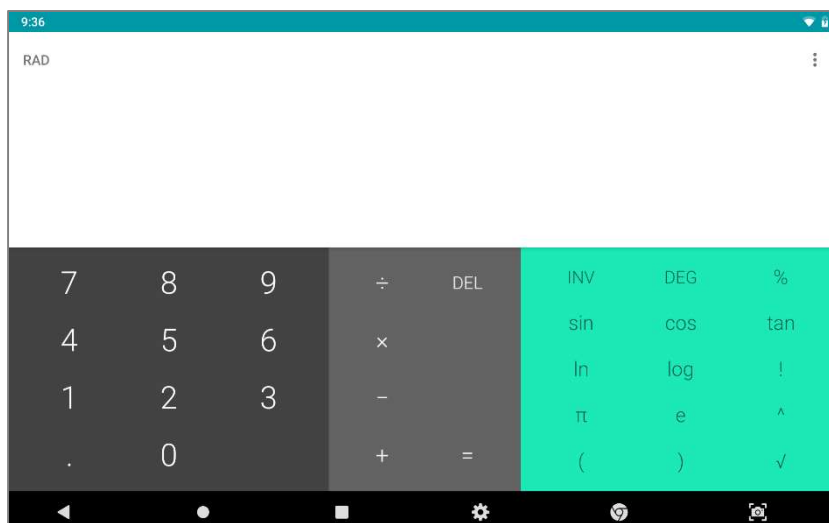
本体内蔵のマイクで音声データを記録できます。



ボタン	説明
	スタンバイモードで音声記録を開始します。
	音声記録を停止し、保存します。
	記録されたファイルのリストを表示します。

● 簡易電卓機能

一般的な関数電卓機能です。



3.3. 本体設定

本製品ソフトウェアバージョンの確認や、表示言語の変更、セルフテストなどを実行できます。



● ソフトウェアバージョン

本製品のシリアル番号、ソフトウェアバージョンなどを確認できます。



● 言語

表示言語を JAPANESE（日本語）、ENGLISH（英語）から選択できます。



● 単位

データの単位を変更することができます。



● セルフテスト

本機のソフトウェアのテストをおこないます。

診断がうまく行えないなどの異常があった場合、ソフトウェアセルフテスト機能を使用してその異常の原因がハードウェア側なのか、ソフトウェア側なのかを判別することができます。

➤ メイン: メインソフトウェアをテストします



➤ 各メーカー: メインソフトウェアおよび各メーカーのソフトウェアをテストします。



テスト結果が[NG]の場合、[アップデート]ボタンが表示されます。[アップデート]を選択すると自動的にソフトウェアアップデート画面に移動し、最新のソフトウェアのダウンロードを開始します。

● ユーザー情報

名前や商号名、電話番号、住所などの個人情報を入力すると、診断レポート作成時に自動で反映されます。

The screenshot shows the 'Main Settings' (本体設定) screen. On the left is a sidebar with buttons: F1 バージョン, F2 言語, F3 単位, F4 セルフテスト, F5 ユーザー情報, F6 画面表示. The main area is titled 'ユーザー情報' (User Information). It contains the following fields:

- 名前: 水戸 太郎
- 会社名: インターサポート
- 電話番号: 0293038021
- Eメール: S@S
- 住所: 茨城県水戸市城南1-6-39

A '保存' (Save) button is located at the bottom right of the form.

● 画面表示設定

画面表示のテーマやサイドボタンの表示位置を変更できます。

The screenshot shows the 'Main Settings' (本体設定) screen. On the left is a sidebar with buttons: F1 バージョン, F2 言語, F3 単位, F4 セルフテスト, F5 ユーザー情報, F6 画面表示. The main area is titled '画面表示設定' (Screen Display Settings). It contains two sections:

- テーマ** (Theme): 画面表示のテーマを選んでください。 (Please select the theme for screen display.) Below this are three buttons: デフォルト (Default), ダーク (Dark), and ライト (Light). This entire section is highlighted with a red box.
- サイドボタン位置** (Side Button Position): サイドボタンの表示位置を選んでください。 (Please select the display position of the side button.) Below this are two buttons: 左 (Left) and 右 (Right).

A '適用' (Apply) button is located at the bottom center of the screen.

A. テーマ

テーマは、デフォルト・ダーク・ライトの3種類から選べます。

● デフォルト



● ダーク

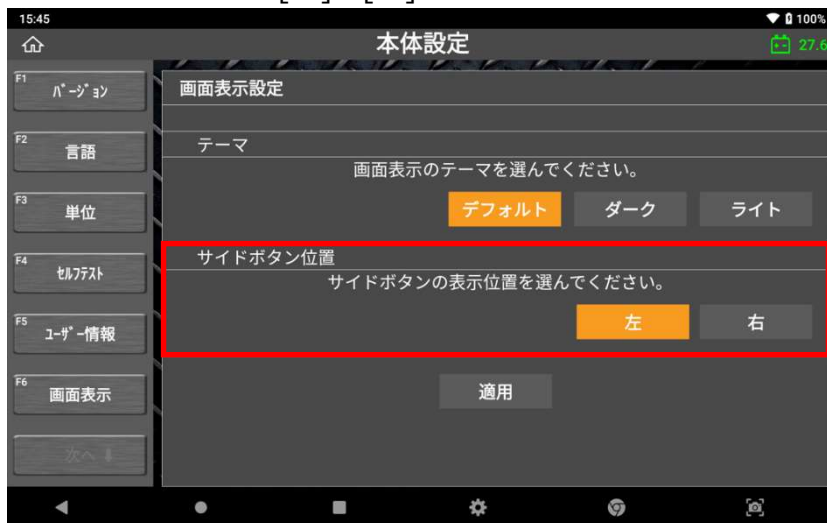


● ライト



B. サイドボタン位置

サイドボタンの表示位置は[左]、[右]から選択できます。



● サイドボタン(右)



● サイドボタン(左)



第 4 章 メイン機能

4.1. 車種選択

- 診断機能

ホーム画面から[車両診断]を選択してください。



- メーカー選択

[車両診断]を選択すると、メーカーが表示されます。



画面下部の両端にある 5 つの検索・分類機能により、簡単に自動車メーカーを選択できます。

● 検索

[検索]機能ではアルファベットの頭文字からメーカーの絞り込みをすることができます。[カテゴリー]タブを使用し、絞り込みをおこなうこともできます。



● カテゴリー

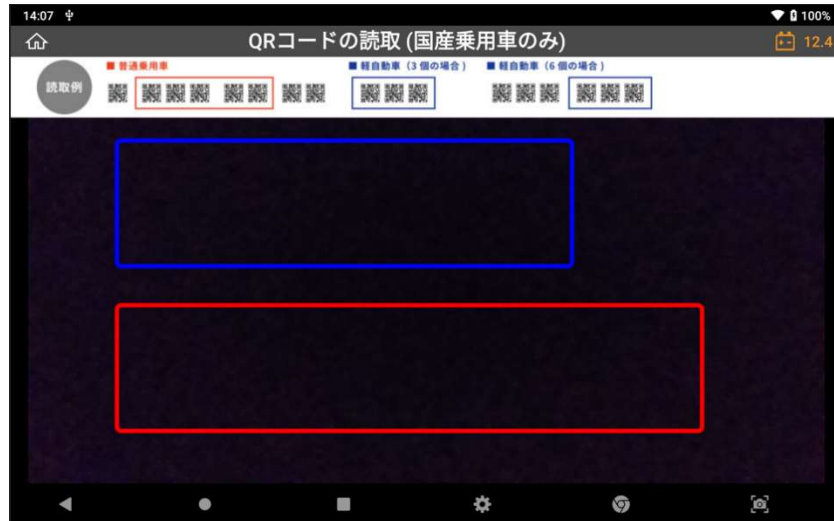
[カテゴリー]機能ではメーカーを[全メーカー]、[国産乗用車]、[トラック・バス]、[輸入乗用車]、[その他]から絞り込むことができます。さらに、[履歴]は最近使用した車種およびシステムを表示することができます（最大 30 件）。



● QRコードの読取り

背面カメラを使用して自動車検査証（車検証）の右下に記載されたQRコードを読み取り、自動で車種選択を行います。

※輸入車、自動二輪車などは対応していません。



● マイメニュー

[マイメニュー]では、よく使用するメーカーを追加・削除できます。追加するには[+]ボタンを押した後、希望するメーカーを選択して[適用]ボタンを押します。機能を削除するには、ソフトウェアの選択を解除し、[適用]ボタンを押してください。





● アルファベット順、選択順

[アルファベット順]はメーカーをアルファベット順に並べ替える機能、[選択順]はメーカーを最近選択した順に並び替える機能です。



● 自動選択、手動選択

車種・システムを自動または手動で選択できます。

[自動選択]では、VIN、年式、型式、エンジン型式などの必要な車両情報を本機が自動で検出します。

[手動選択]では、ユーザーが手動で車両情報を選択します。



A. 自動選択

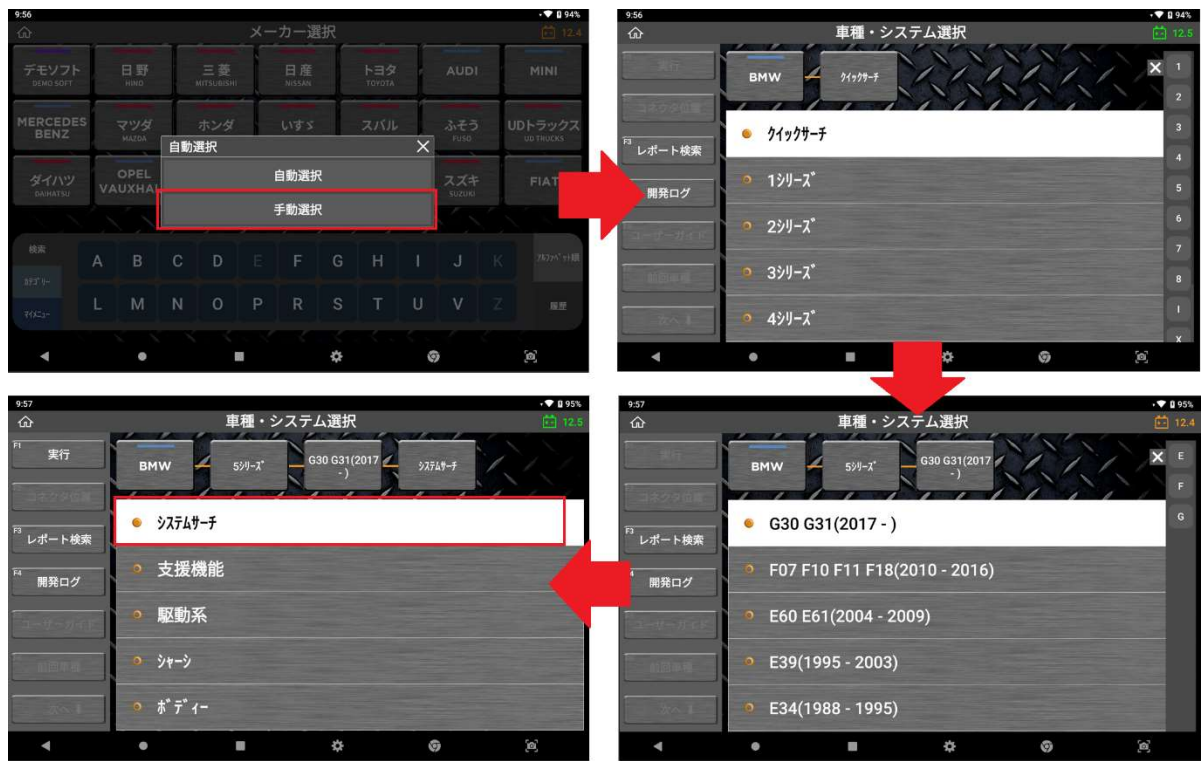


※診断をおこなう車両が CAN 通信プロトコルを搭載していない場合など、自動選択が機能しない可能性があります。そのような場合は手動で車種等を選択してください。

※2022年2月1日現在、「自動選択」機能は輸入乗用車のみ対応しています。国産乗用車、トラック・バスには対応していません。

B. 手動選択

車種、年式、エンジン型式、システムを手動で選択してください。



4.2. システムサーチ

● システムサーチ

システム選択画面で[システムサーチ]を選択すると、車両と通信できるすべてのシステムを検索し表示します。



例) メーカー選択画面で、診断する車両のメーカーを選択します。



車種、型式、エンジン型式、年式およびシステムをすべて選択してから[システムサーチ]を選択し、[実行]を押します。



システムサーチ実行後にシステムを一覧表示します。

[自己診断]を選択すると故障コードを表示します。

● システムサーチ結果



➤ 車両で見つかったシステム



本機が通信して故障コードを確認できた制御システムが画面に表示されます。

➤ 故障コード数

システムサーチ機能実行中に車両の制御システムから故障コードを読み込み、各システムで検知された故障コードの数を表示します。しかし、SRS、IMM、BCMのような制御システムでは故障コード読み込みおよび消去機能に対応していない可能性があります。

一部故障コード読み取りおよび消去機能に対応していないシステムがあります。

また、一度に全システムの故障コードを読み取れない場合があります。このような場合、下の表にある記号が表示されます。

マーク	説明
	システムが故障コード読み取り機能に対応していません。
	個別にシステムを通信する必要があります。メニューからシステムを選択し、個別に故障コード読み取りをおこなってください。

メルセデスベンツ、BMW の場合、制御システムで検出された故障コードを示すために、システムサーチ結果に故障コードの数ではなく[!]マークが表示されます。

➤ システムサーチのファンクションキー

実行： 選択したシステムと通信し、診断メニューを表示します。

中止： 診断を中止し、システムサーチ画面に戻ります。

DTC クリア： システムサーチで検出したすべてのシステムの故障コードを消去します。

★リスト： 対応している作業サポートを右側に一覧表示します。

自己診断： 故障コードが検出されたシステムの故障コードを表示します。

再サーチ： システムサーチを再実行します。



➤ レポート作成

自己診断結果をレポートとして作成することができます。詳細については [第 10 章 診断レポート] を参照してください。



[自己診断画面]

4.3. 自己診断

自己診断では、車両と通信することでコントロールモジュールに記録された故障コードを表示します。また故障コード情報および故障コードを消去することができます。

● 診断メニュー

メニューから直接システムを選択するか、システムサーチ結果からシステムを選んで[実行]を選択すると、以下の診断機能が表示されます。

※自動車メーカーによって異なります



- 自己診断
- データ表示
- 保存データ表示
- アクティブテスト
- 作業サポート
- 識別情報表示

各診断メニューの詳細は以下を参照してください。

● 故障コードの読取り

[自己診断]を選択すると、システムの故障コードを一覧表示します。



より大きなフォントで故障コード系統名を見たい時は、指 2 本を画面にタッチし、広げるような動作をすると画面を拡大することができます。(最大 5 個の故障コード系統名まで拡大可能)



● 故障コードの状態

故障の検出状態を 3 つのタイプに分類して表示します。

現在:

現在も故障コードを検出している状態を意味します

過去/記憶:

過去に故障コードを検出したことを意味します

未確:

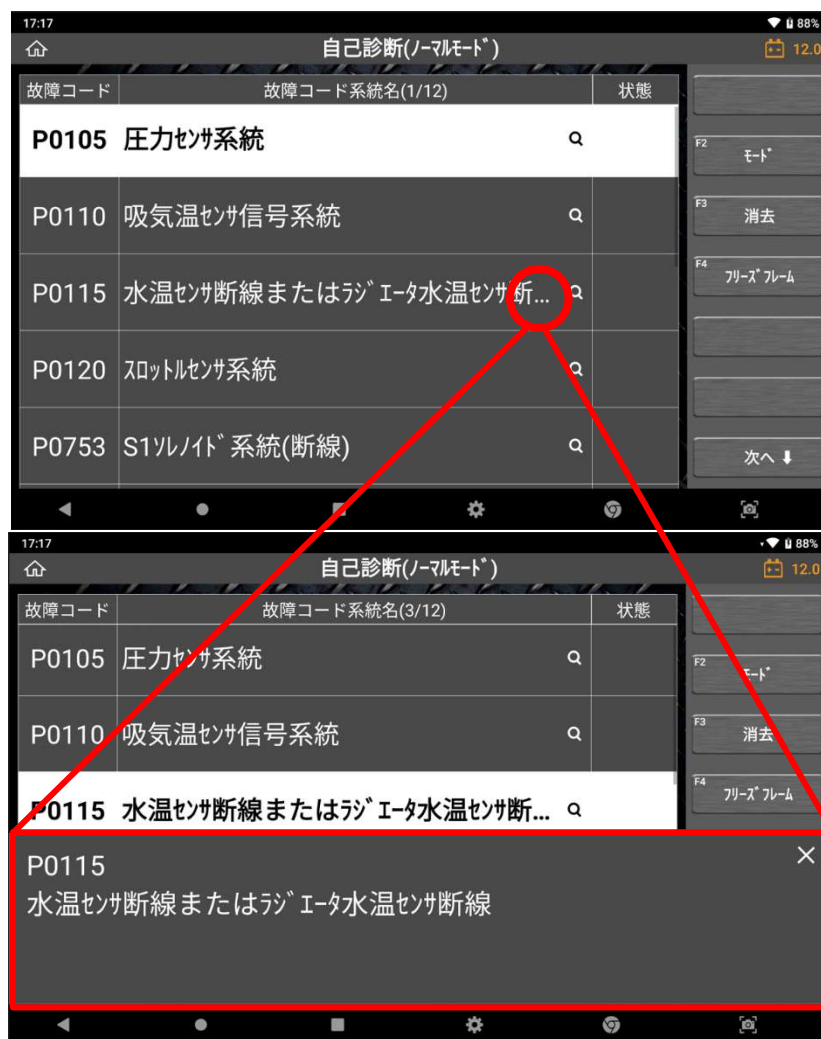
2トリップ連続故障検出法(※)を使用する故障コードで、1 回目に検出された故障に対して「1t」と表示されます。

※ 2トリップ連続故障検出法：誤診断防止のため、IG スイッチの OFF/ON をはさんだ 2 回の連続する走行で 2 回とも同じ故障が検出されないと故障と判断しない故障検出方法

● 長い故障コード系統名の全文表示

故障コード系統名がセル内に収まらない場合は全文が表示されず、「●●●...」という表示になります。

その場合は、項目部分をタップすると全文が別画面で表示されます。



※ モード(トヨタ・レクサス・ダイハツのみ)

[モード]ボタンは、一部のトヨタおよびダイハツの故障コードを読み込む際にのみ有効になります。

他のメーカーと異なりトヨタおよびダイハツの場合は、故障コード読み込み機能の追加オプションがあります。診断モードをチェックモードまたはノーマルモードに切替えます。

[ノーマルモード]での故障コード読み込みはスタンダードな故障コード読み込み機能で、他のメーカーと大きな違いはありません。[チェックモード]に切替えると、制御ユニットの故障コード認識への許容値が低くなり、故障コード設定条件が通常よりも敏感になります。まだ値が通常範囲を超えていないが限界レベルの異常がある潜在的な故障コードを点検するためです。

トヨタおよびダイハツの ABS システムには、ABS 制御システムで検出されたすべての故障コードを一覧表示し、同時に補正機能を実行する[テストモード]に対応しています。



故障コード一覧表示画面で
[モード]を選択します。



注意事項が表示されるので、
実行する場合は[OK]を選択します。

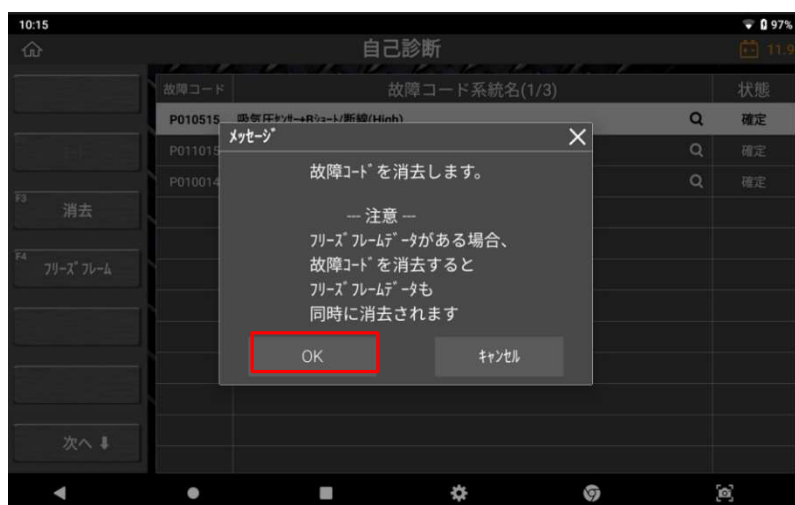


モードの表示が変わったことを確認してください。

元の状態に戻す場合は、再度[モード]を選択してください。

● 故障コードの消去

故障コードを ECU のメモリーから消去するには[消去]を選択してください。確認画面が表示されたら[OK]を選択し、故障コードを消去します。



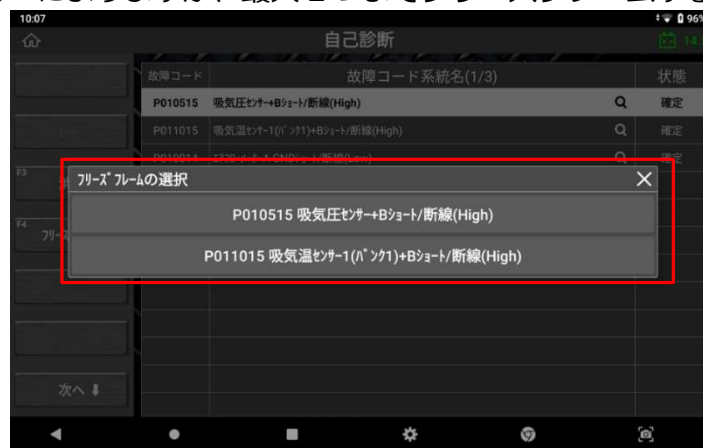
● フリーズフレームデータ

フリーズフレームデータとは、ECU に故障コードが検出された時に記録されるデータのことです。このデータには故障コードが検出された時のセンサーの値が記録されており、故障部位の探究に役立ちます。HV システム等フリーズフレームデータの画面からその故障コードに関する詳細コードを確認することができます。

フリーズフレームデータを表示するには[フリーズフレーム]を選択します。一覧から任意の項目を選択するとフリーズフレームデータが表示されます。



※メーカーによりませんが、最大2つまでフリーズフレームすることができます



● 旧車両の手動読取りおよび消去

1980 年代および 1990 年代前半の旧車両は双方向通信に対応していないため、本機を使用したコード読取り／消去ができない場合があります。これらの車両では整備書を参照し、手動での読取り／消去をおこなってください。

● 他の診断メニューへの移動

サイドメニューバー下にある[次へ]を選択すると、[F11 データ表示]と[F12 アクティブテスト]ボタンが表示されますので、そこから直接別の診断機能へ移動できます。



4.4. データ表示

データ表示は、基本的な診断機能の一つです。制御システムのアクチュエーター状態、センサー入力値や入力/出力両方の制御システム作動をモニターします。車両と通信することで車両に組付けられたセンサーおよびアクチュエーターの状態とデータ結果をリアルタイムで確認できます。

● データの読み込み

診断メニューから[データ表示]を選択すると、データ値が以下のように一覧表示されます。

※表示されている項目名はメーカーごとの車両型式とシステムによって異なる場合があります



15:37

データ表示(全項目)

13.5

項目名(1/8)	Q	現在値	単位	項目名(2/8)	Q	現在値	単位
FR車輪速		0	km/h	IG1電圧		13.80	V
FL車輪速		0	km/h	MT電圧値		0.00	V
RR車輪速		0	km/h	シフトレバー位置		P/N	
RL車輪速		0	km/h	メインアイドルスイッチ		ON	
マスターシリンダー圧センサー		0.49	V	システム開始		ON	
Gセンサー		0.286	m/s ²	ストップライトSW		OFF	
Gセンサー-2		-0.143	m/s ²	パワーステアリングSW		ON	
実エンジントルク		0.2	Nm	ストップランプリレー		OFF	
エンジン回転数		741	rpm	車速		0	km/h
アクセル開度		0.0	%	VSC,TRC/ブレーキ SM2		OFF	
舵角センサー		-6.0	°	VSC,TRC/ブレーキ SM1		OFF	
ヨーレートセンサー		0	/s	ストップランプリレー出力		OFF	

➤ 画面詳細／1 画面詳細

[2 画面表示]モードと[1 画面詳細]モードは相互に切替えることができます。



項目名(1/172)	現在値	単位	最小値	最大値
<input type="checkbox"/> 走行距離	185891		185891	185891
<input type="checkbox"/> 走行距離用単位	km		-	-
<input type="checkbox"/> 車速	0 km/h		0	0
<input type="checkbox"/> エンジン回転数	1286 rpm		1280	1295
<input type="checkbox"/> エンジン負荷値	18.4 %		18.4	18.8
<input type="checkbox"/> 車体負荷	12.9 %		12.9	13.3
<input type="checkbox"/> 吸入空気量	0.45 gm/s		0.45	0.45
<input type="checkbox"/> 大気圧	101 kPa		101	101
<input type="checkbox"/> 吸入管絶対圧力	146.59 kPa		146.59	146.59
<input type="checkbox"/> エンジン冷却水温	50 °C		50	50
<input type="checkbox"/> 吸入空気温度	-40 °C		-40	-40
<input type="checkbox"/> エンジン始動後経過時間	372 sec		368	372

より大きなフォントでデータ値を見たい時は、指 2 本を画面にタッチし、広げるような動作をすると画面を拡大することができます。(最大 5 個のデータ値まで拡大可能)



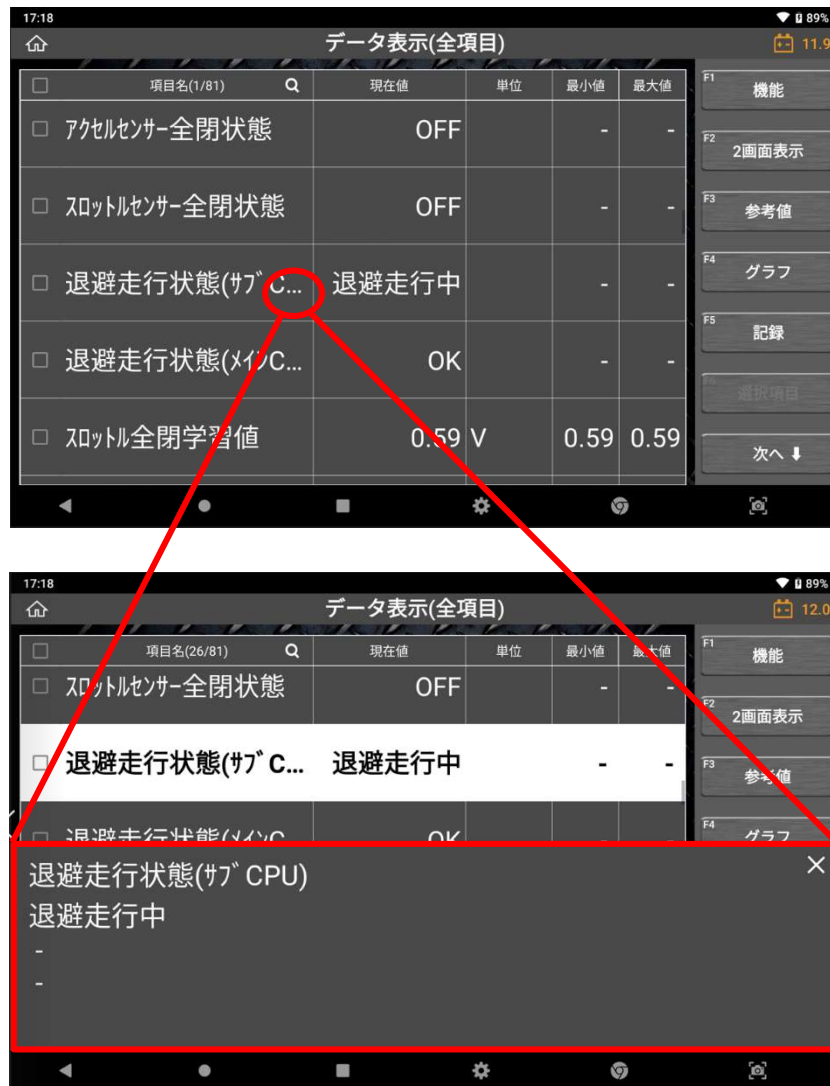
項目名(1/172)	現在値	単位	最小値	最大値
<input type="checkbox"/> 走行距離	185891		18...	18...
<input type="checkbox"/> 走行距離用単位	km		-	-
<input type="checkbox"/> 車速	0 km/h		0	0
<input type="checkbox"/> エンジン回転数	1284 rpm		12...	13...
<input type="checkbox"/> エンジン負荷値	18.4 %		18.4	18.8

➤ 長い項目名の全文表示

※この機能は「1画面詳細」表示モードでのみ使用可能です。

項目名がセル内に収まらない場合は全文が表示されず、「●●●...」という表示になります。

その場合は、項目部分をタップすると全文が別画面で表示されます。



➤ 機能

[機能]を選択すると、最大値/最小値の非表示、リセットができます。

最大最小値 無し	最大値および最小値を非表示にします。
最大最小値 リセット	最大値および最小値をリセットします。
TC 端子	TC 端子(※)を ON/OFF にします。 ※TC 端子とは、故障コードを確認するときに短絡させる端子です



● グラフ

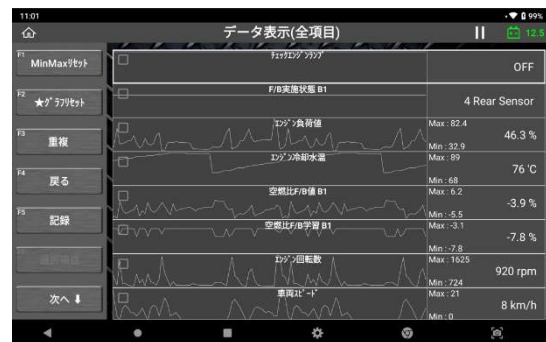
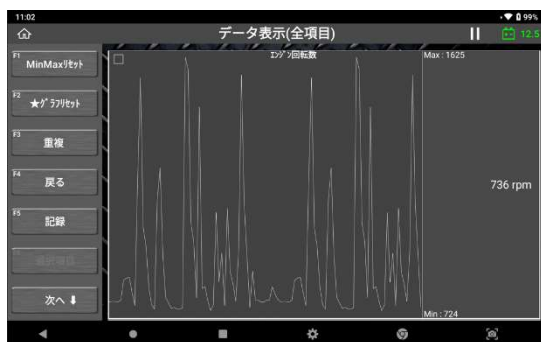
1 画面詳細モードで[グラフ]を選択すると、表示方法がテキスト表示からグラフ表示に切替わります。

[グラフ]機能は、2 画面表示の場合は使用できません。



➤ グラフ拡大/縮小

グラフ表示画面上に指を 2 本置きます。2 本の指の間隔を広げたり狭めたりして、グラフを拡大または縮小します。



➤ 戻る

前の画面に戻ります。

➤ 記録

データを記録し保存します。

● 選択項目/全項目

➤ データ項目数が多いと…

年式の新しい車両はデータ項目数が非常に多く、1つのシステムで数百個のデータ項目が表示されていることもあります。データ項目数が増えると表示するページ数も増え、その中から確認したいデータ項目を探すことが困難になります。

➤ データ項目数が少なくなるほど、データ更新速度は速くなります

読取りたいデータ項目数が増えると、データをコントロールモジュールから受け取るのに時間がかかり、必然的にデータ更新速度が遅くなります。そのため、選択するデータ項目が少なければ少ないほど、データ更新速度は速くなります。

➤ 選択項目

[1 画面詳細モード]でデータ項目の左側にあるチェックボックスを選択すると[選択項目]ボタンが有効になります。すると、以下のように選択したデータ項目だけが一覧表示されます。

項目名(1/130)	現在値	単位	最小値	最大値
<input type="checkbox"/> 4速リアセンサ	OFF		-	-
<input type="checkbox"/> F/B実施状態 B1	4 Rear Sensor		-	-
<input checked="" type="checkbox"/> エンジン負荷値	45.5	%	34.9	82.4
<input checked="" type="checkbox"/> エンジン冷却水温	83	°C	68	83
<input checked="" type="checkbox"/> 空燃比F/B値 B1	-1.6	%	-5.5	5.5
<input checked="" type="checkbox"/> 空燃比F/B学習 B1	-3.1	%	-7.8	-3.1
<input type="checkbox"/> エンジン回転数	759	rpm	730	1625
<input type="checkbox"/> 車両スピード	8	km/h	0	21
<input checked="" type="checkbox"/> 点火時期(#1)	9.5	°	5.0	17.0
<input checked="" type="checkbox"/> 吸気温度	46	°C	46	46
<input type="checkbox"/> 吸入空気量	5.40	gm/s	4.56	22.09
<input checked="" type="checkbox"/> 2021年No.1セグメント	17.6	%	16.9	25.1

項目名(1/7)	現在値	単位	最小値	最大値
エンジン負荷値	45.1	%	-	-
エンジン冷却水温	89	°C	-	-
空燃比F/B値 B1	0.8	%	-	-
空燃比F/B学習 B1	-3.1	%	-	-
点火時期(#1)	6.5	°	-	-
吸気温度	46	°C	-	-
2021年No.1セグメント	17.3	%	-	-

➤ 全項目

すべてのデータ項目一覧表示に戻ります。

➤ 検索

特定のデータ項目を検索するには、「項目名」の横にある虫眼鏡のアイコンを押してください。

項目名(1/4) 🔍

確認したいデータ項目のみ抽出したい場合は、チェックボックスに✓を入れ、[選択項目]を押します。



確認したいデータ項目が表示されているページに移動するには、該当項目を選択して[カーソル移動]を押します。



● グラフのカスタム化

[重複]モードでは、各データ項目のグラフを水平方向に移動したり、各グラフの垂直のスケールを個別に変更したりできます。各グラフのスケールと位置をカスタマイズする機能は、データ項目を効率的に分析するためのより直感的なアプローチを可能にします。

➤ サイズ変更

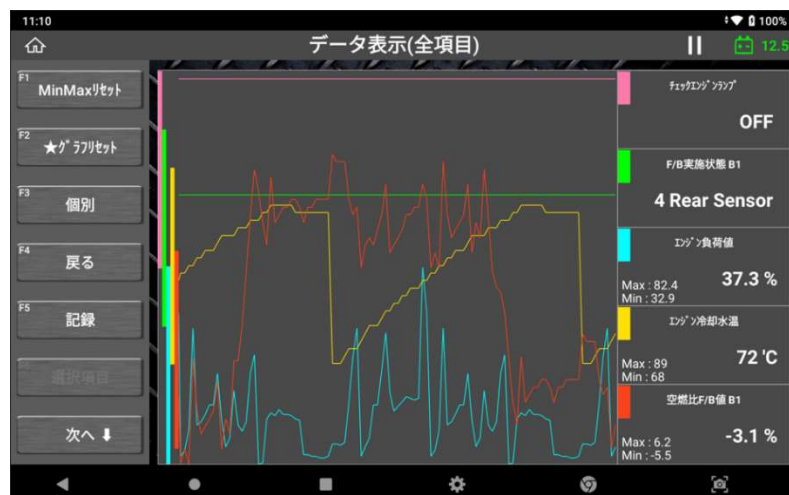
サイズ変更したいデータ項目に対応する色の垂直線上に指を2本置きます。2本の指の間隔を広げたり狭めたりして、グラフを拡大または縮小します。

➤ 移動

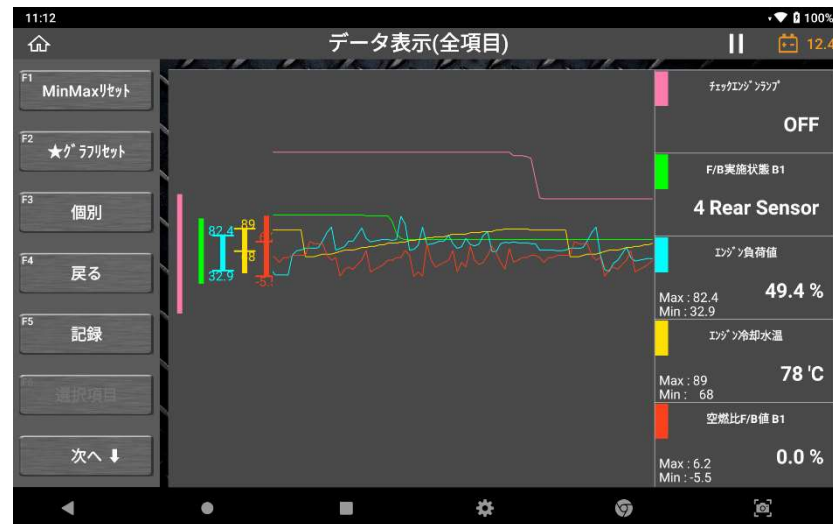
対応する色の垂直線を指またはタッチペンで上下に移動させ、グラフを希望の位置に配置します。



<グラフ調整なし>



<グラフサイズ変更および重複モード解除>



<グラフサイズ変更および画面中央での重複表示>

● 記録

➤ 記録方法

データ画面の[記録]ボタンを選択するとデータを保存できます。

グラフモードまたはデーター一覧を[全項目]で実行し、値がすべて画面に表示されている場合、[単一記録]または[連続記録]を選択してデータを保存することができます。



グラフモードまたはデータ一覧を[選択項目]で実行し、データ値またはグラフ線を選択した項目のみを表示している場合は、追加で[選択項目の記録]を選択できるようになります。



ポップアップ画面右上の「?」を選択すると、各項目の説明文が表示されます。



➤ 単一記録

1 サンプル分のデータ記録は[単一記録]を選択すると開始します。



記録が完了したら確認メッセージが表示されます。ファイルの保存場所と保存名を確認し[OK]を選択して保存してください。

➤ 連続記録

[連続記録]を選択すると連続したサンプルのデータ記録を開始します。

複数画面の記録を開始するとユーザーによって停止されるまで継続されます。



- 記録時間とサンプル数は、画面上部に表示されます
[記録終了]: 記録を終了します。
[トリガ]: 閲覧する際に記録データから特定の一部を表示するようにします。
- [記録終了]を選択すると記録を終了します。[OK]を選択して終了すると記録データは保存されます。

➤ 選択項目の記録

このオプションは、データー一覧またはグラフが[選択項目]モードで表示されている場合のみ使用できます。

ボタンを押すことで記録を開始する[連続記録]と異なり、内部に記録されている選択した項目の連続/複数画面を保存します。



● 記録データの確認

記録されたデータはホーム画面の[保存データ]、または診断メニューの[保存データ表示]から[データ記録]機能を使用し、閲覧および再生ができます。



4.5. アクティブテスト

制御モジュールを制御し、車両の各システムを構成するアクチュエーターを駆動させます。アクチュエーターが異常かどうかを確認することができます。

*アクチュエーターの操作方法は、システムと項目によって異なる場合があります。

● アクティブテスト項目選択



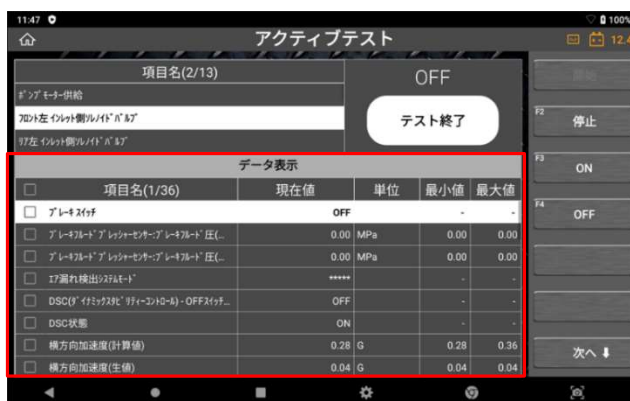
診断メニューの[アクティブテスト]を選択します。



アクティブテスト一覧から実行する項目を選択します。

>> 画面端の各テストの車両条件を確認してください。

>> 画面端の[F1 開始]を選択し、アクティブテストを開始します。



画面下部には関連するデータ項目が表示されます。確認したいデータ項目を検索して選参照することができます。

>> 実行するファンクションキーを選択し、選択したアクチュエーターの反応と車両制御システムの反応を画面下部に表示されたライブデータで確認します。

アクチュエーター駆動/停止制御

アクチュエーター操作方法はシステムと項目によって異なる場合があります。

(例) スイッチ：ON/OFF、音量調整：+ /-、機能：実行/未実行 など
画面右側のボタンで駆動方法と停止方法を確認してからアクティブテストを開始してください。

例 A：アクティブテストで[燃料噴射量]を選択した場合、噴射時間を制御できます。



例 B：[VVT 制御]を選択した場合、機能実行を制御できます。



● アクティブテストの対応有無

すべてのアクチュエーターがこの機能に対応しているわけではありません。
アクティブテストを実行できるアクチュエーターはメーカーによって様々ですので、メーカーや車種によって対応項目は異なります。

4.6. 保存データ(保存、バックアップ、印刷)

*[第9章 保存データ]を参照してください。

4.7. 作業サポート

車両診断以外に、インジェクターコーディングや DPF 再生などの追加機能にも対応しています。

● 作業サポート選択

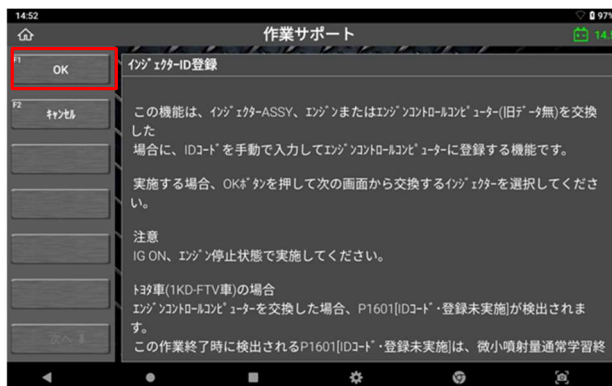
診断メニューから[作業サポート]を選択し、作業サポート一覧から実行する項目を選択します。

三菱の作業サポート[インジェクターID登録]を例にして解説します。

※作業サポートはメーカー・車種などにより、それぞれ異なる方法でおこなわれる場合があります。



作業サポート一覧から実行したい作業サポートを選択します。



選択後、実施するための注意事項や実施条件などのメッセージが表示されます。

実施する場合は[OK]を選択してください。



ID を登録するインジェクターを一つ選択し、[OK]を選択してください。



画面のキーパッドを使用して、選択したインジェクターの ID を入力してください。

ID が正しく入力されていることを確認し、[OK]を選択してください。



正常に ID が登録されると、完了のメッセージが表示されます。
[OK]を選択すると作業サポートは終了します。

● 動画のチュートリアル

作業サポート名の左に動画マークがある項目は、該当作業サポートに関するチュートリアル動画を閲覧できます。（別途ブラウザが開きます）



作業サポートに関する注意事項

作業サポートの対応有無

実行できる作業サポートはメーカーによって様々ですので、メーカーや車種によって対応項目は異なります。

実施条件

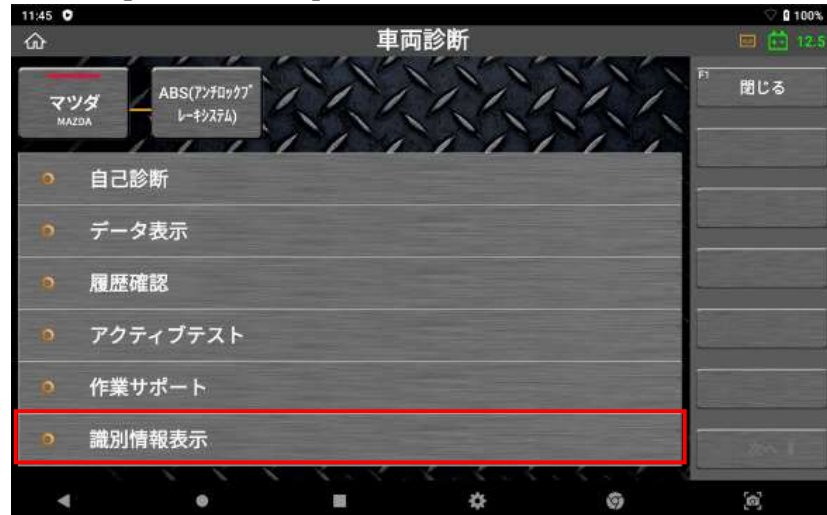
実施条件を満たしていない場合、作業サポートが正常に完了しない場合があります。必ず実施条件を守り、画面の指示通りに車両条件を整えてから作業を開始してください。

4.8. 識別情報表示

識別情報表示では、車両に搭載しているコントロールモジュールの仕様を確認できます。

※メーカーやシステムによっては対応していない場合もあります

診断メニューから[識別情報表示]を選択してください。



選択したシステムの ECU 仕様が表示されます。



第 5 章 OBD-II 診断

OBD-II 診断

OBD-II 診断は、ISO9141-2、ISO14230-4(KWP2000)、ISO15765-4(CAN バス)、SAE J1850 VPW、SAE J1850 PWM 規格に準拠した車両のエンジンシステムを診断する機能です。

オンボード診断は、自動車の排出ガス制御システムの誤動作や故障をチェックするために設計されています。OBD システムはダッシュボード上の警告灯を点灯することにより、排気制御システムが故障/非効率化した場合にドライバーに警告したり、診断機を使用しての問題点の素早い割り出しを可能にします。また、排気ガスの過剰排気を最小限に抑えます。

OBD-II は、標準化により OBD システムの効率を向上させた OBD のアップデート版として導入されました。標準化のための努力があったおかげで、整備士は ISO と SAE の工業規格をサポートするすべての車種の故障コード情報やデータをそのメーカーに関係なく取得することができます。



CAN バスタイプの車両の OBD-II メニュー例

OBD-II テストモード(診断サービス)

最新の OBD-II 規格 SAE J1979 に記載されている診断サービスは以下のように 9 つあります。

2002 年以前の J1979 では、これらは[モード]と呼ばれていました。

サービス	説明
01	電流データ表示
02	フリーズフレームデータ表示
03	保存された故障コード表示
04	故障コードおよび保存データ消去
05	テスト結果、O2 センサーモニタリング(非 CAN のみ)
06	テスト結果、他のコンポーネント/システムモニタリング(テスト結果、CAN 用 O2 センサーモニタリングのみ)
07	保留中の故障コード表示(現在または前回の運転時に検出)
08	オンボードコンポーネント/システムの作動制御
09	車両情報要求

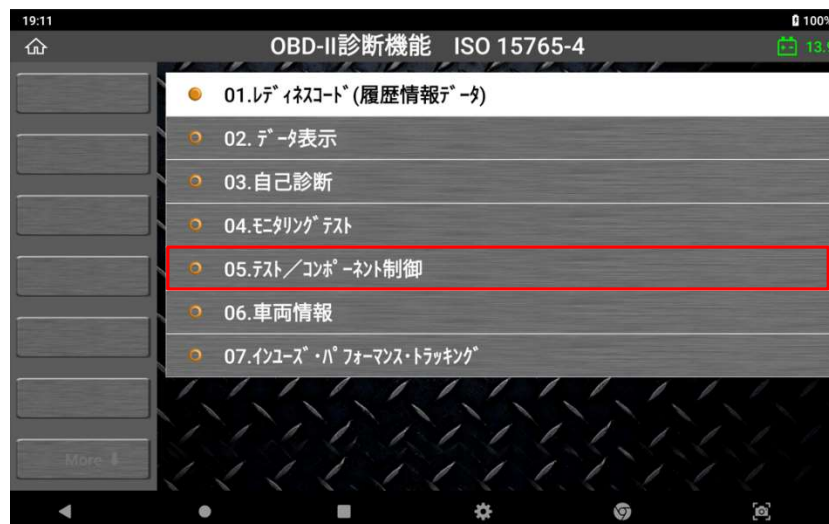
Z 対応のテストモード

自動車メーカーはすべてのサービスに対応する必要はなく、本製品も一般サービス名ですべての汎用テストモード(診断サービス)に対応しているわけではありません。

本製品は、メーカー固有の診断機能を実行するように設計されています。

- サービス[01]は、本製品の 2 つの機能[01.レディネスコード]および[02.データ表示]で対応しています。[01.レディネスコード]を選択してオンボード診断システムの準備状態を確認できます。また[02.データ表示]を選択してパワートレイン制御システムデータ項目のデータ値をモニターできます。
- 本製品の[03.自己診断]は、サービス[02]、[03]、[04]、および[07]に対応しています。
- サービス[05]は非 CAN 車両には対応していません。車両が機能に対応している非 CAN タイプの場合は、画面のメニューに[04.O2 センサテスト]を表示します。

- サービス[06]は CAN 車両にのみ対応しています。車両が CAN バスプロトコルで通信する場合は、[04.02 センサテスト]の代わりに[05.モニタリングテスト]を自動的に表示します。
- サービス[08]は[06.テスト/コンポーネント制御]で対応しています。
- サービス[09]は[07.車両情報]で利用可能です。また、“スパークイグニッション車両のインユーズ・パフォーマンス・トラッキング”データを読み込むサービス[09]の [PID 08]は、[08.インユーズ・パフォーマンス・トラッキング]で別途対応しています。



非 CAN 車両の OBD-II 診断メニュー

OBD-II データ表示

[01.レディネスコード]および[02.データ表示]を OBD-II 診断メニューから選択すると、選択したセンサー出力画面が表示されます。



項目名	MID	現在値	単位
<input type="checkbox"/> ECUに記憶されているバートレインDTC数	EA	0	-
<input type="checkbox"/> 排気ガス関連バートレインDTC数及びMIの点灯状態	EA	OFF	-
<input type="checkbox"/> ミスファイアモニタ	EA	非対応	-
<input type="checkbox"/> 燃料系モニタ	EA	非対応	-
<input type="checkbox"/> 一般構成モニタ	EA	完了	-
<input type="checkbox"/> キャタライザモニタ	EA	非対応	-
<input type="checkbox"/> ヒータ付キャタライザモニタ	EA	非対応	-
<input type="checkbox"/> 蒸発ガス防止装置モニタ	EA	非対応	-
<input type="checkbox"/> 2次空気導入装置モニタ	EA	非対応	-
<input type="checkbox"/> 空調制御装置冷暖モニタ	EA	非対応	-
<input type="checkbox"/> O2センサモニタ	EA	非対応	-
<input type="checkbox"/> O2センサヒータモニタ	EA	非対応	-

レディネスコード



項目名	MID	現在値	単位
<input type="checkbox"/> 燃料系1の状態	E8	CL-O2S 制御	-
<input type="checkbox"/> 燃料系2の状態	E8	-	-
<input type="checkbox"/> 負荷計算値	E8	38.0	%
<input type="checkbox"/> エンジン冷却液温度	E8	82	℃
<input type="checkbox"/> 短期燃料調量-パルス1	E8	-2.3	%
<input type="checkbox"/> 長期燃料調量-パルス1	E8	-2.3	%
<input type="checkbox"/> エンジン回転数	E8	1343	RPM
<input type="checkbox"/> 車速	EA	0	km/h
<input type="checkbox"/> 第1気筒進角点火タイミング	E8	17	°
<input type="checkbox"/> 吸気温度	E8	45	℃
<input type="checkbox"/> エアロセンサからの吸気量	E8	6.00	g/s
<input type="checkbox"/> 絶対スロットル位置(開度)	E8	18.0	%

データ表示(一覧表示)



データ表示(グラフ)



未対応メッセージが表示された場合、選択した機能はその車両に対応していません。

OBD-II 故障コードについて

本製品の[03. 自己診断]は、サービス [02]、[03]、[04]および[07]に対応しています。



The screenshot shows a mobile application interface for OBD-II diagnostics. The title is '自己診断' (Self-Diagnosis). On the left, there are buttons for 'F3 消去' (Clear) and 'F4 フリーズ フレーム' (Freeze Frame). The main area is a table with columns: '故障系統名' (Fault System Name), 'MID', and '状態' (Status). The table lists several fault codes, all with a status of '確定' (Confirmed).

故障系統名	MID	状態
P0118 エンジン冷却水温センサー系統(High)	0E	確定
P0113 吸気温度センサー系統(High)(バンク1)	0E	確定
P1519 メーカー仕様の故障コードなので整備書を参照してください。	0E	確定
P1253 メーカー仕様の故障コードなので整備書を参照してください。	0E	確定
P1753 メーカー仕様の故障コードなので整備書を参照してください。	0E	確定

OBD-II 故障コード読取り



This screenshot shows the same OBD-II diagnostic screen as above, but with a confirmation dialog box overlaid. The dialog is titled 'OBD-II診断' and contains the text: '条件: IG ON, エンジンOFF. 故障コードを消去してもよろしいですか?' (Condition: IG ON, Engine OFF. Is it okay to clear the fault codes?). There are 'OK' and 'キャンセル' (Cancel) buttons at the bottom of the dialog.

故障系統名	MID	状態
P0118 エンジン冷却水温センサー系統(High)	0E	確定
P0113 吸気温度センサー系統(High)(バンク1)	0E	確定
P1519 メーカー仕様の故障コードなので整備書を参照してください。	0E	確定
P1253 メーカー仕様の故障コードなので整備書を参照してください。	0E	確定
P1753 メーカー仕様の故障コードなので整備書を参照してください。	0E	確定

OBD-II 故障コード消去

その他の OBD-II サービスについては、汎用の OBD-II 関連規格書を参照してください。

第 6 章 サポート機能

6.1. サポート機能の使い方

サポート機能とは、車両整備の際によく使われる機能にすぐアクセスできることで、作業の効率化を図れる機能です。

A. ホーム画面から[サポート機能]を選択します。



B. 任意の機能を選択します。



- C. 診断をおこないたい車両を選択してください。
(自動選択に失敗した場合、車種や年式、エンジン型式を手動で選択してください。)

※2022年2月1日現在、「自動選択」機能は輸入乗用車のみ対応しています。国産乗用車、トラック・バスには対応していません。



- D. 車両が自動検出されたら、車両情報を確認して[実行]を押します。その後、サイドメニューにある[実行]を選択するとシステムとの通信を開始します。



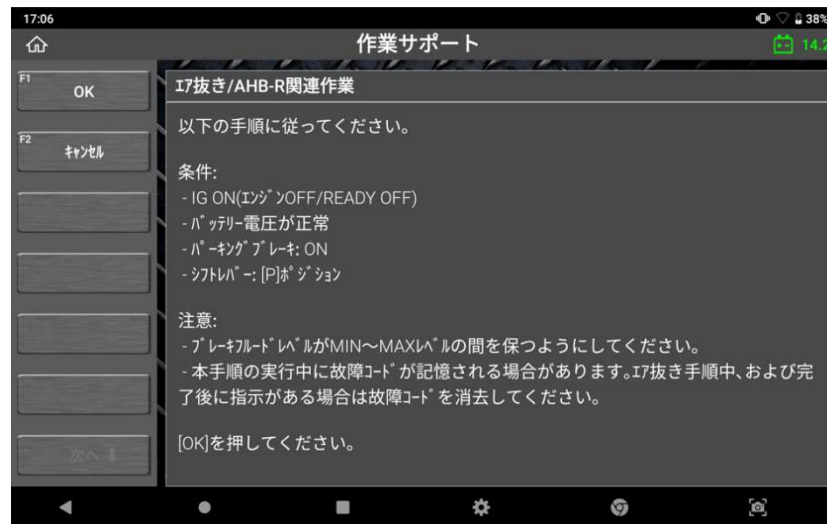


E. 関連する作業サポート名が表示されます。

- ※ メーカー・車種によっては該当するシステムが1つ以上表示され、整備作業を完了させるには2つ以上の作業サポートを実行する必要がある場合もあります。



F. 作業サポートを実施する前に、必ず実施条件や注意事項をお読みください。



第 7 章 リモートサポートおよび J2534

7.1. リモートサポート

リモートサポート機能は、TeamViewer アプリを使用して本機と他のデバイス（PC やスマートフォン）を接続する機能です。



● 接続方法

ホーム画面から[リモートサポート]を選択します。本機側の ID が[使用中の ID]の横に表示されます。他のデバイスの TeamViewer アプリで本機側の ID を入力します。ID が入力されると、以下のようなポップアップ画面が本機の画面上に表示されます。[許可]を選択するとデバイスとの接続を開始します。





7.2. J2534 パススルー機能



注意

J2534 は、本機を PC と車両間のパススルーデバイスとして使用し、メーカー純正のソフトウェアで診断します。また、OBD 検査用のアプリを想定した作りとなっておりますので、通常の故障診断には使用しません。J2534 を使用するには、お手持ちの PC (Windows OS) に専用ドライバーをインストールする必要があります。

専用ドライバーは、弊社ウェブサイト (g-scan.jp) からダウンロードしてください。



ドライバーのインストール手順

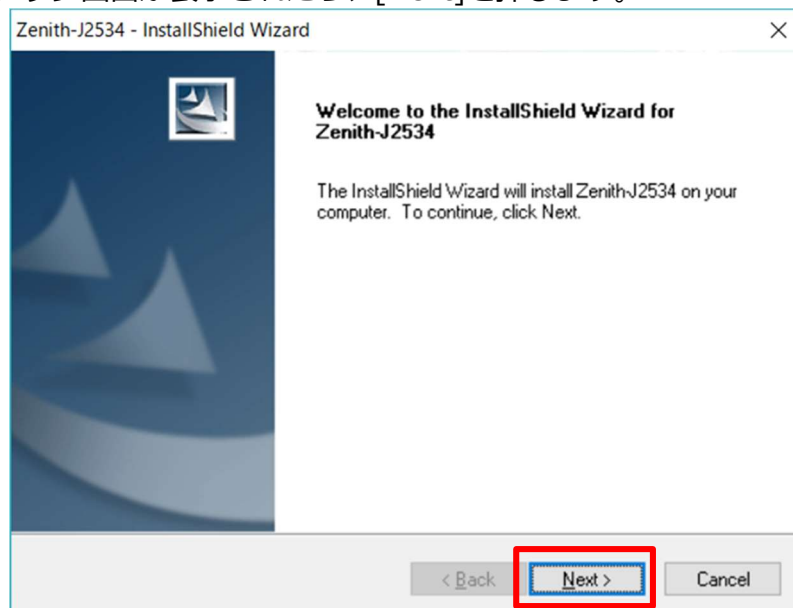
- A. 弊社ウェブサイト(www.g-scan.jp)から専用ドライバーをダウンロードします。



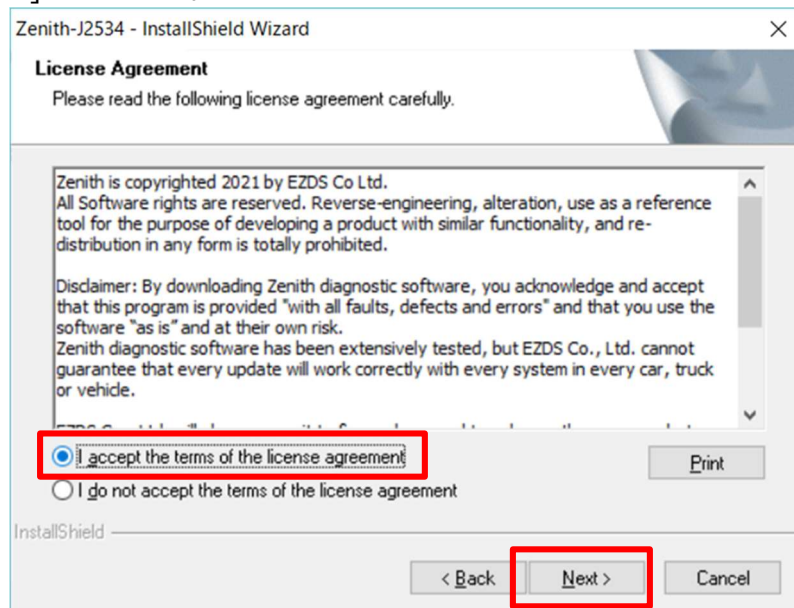
B. ダウンロードした「ZenithJ2534_211018.exe」ファイルを実行します。



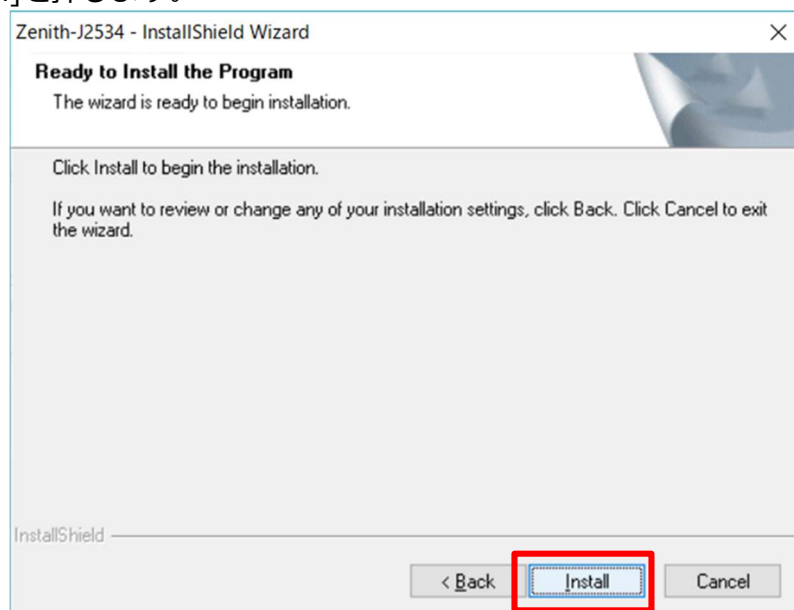
C. ポップアップ画面が表示されたら、[Next]を押します。



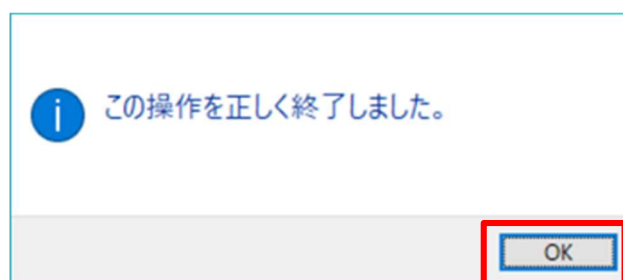
- D. 上側の「☒ I accept the terms of the license agreement」を選択し、
[Next]を押します。



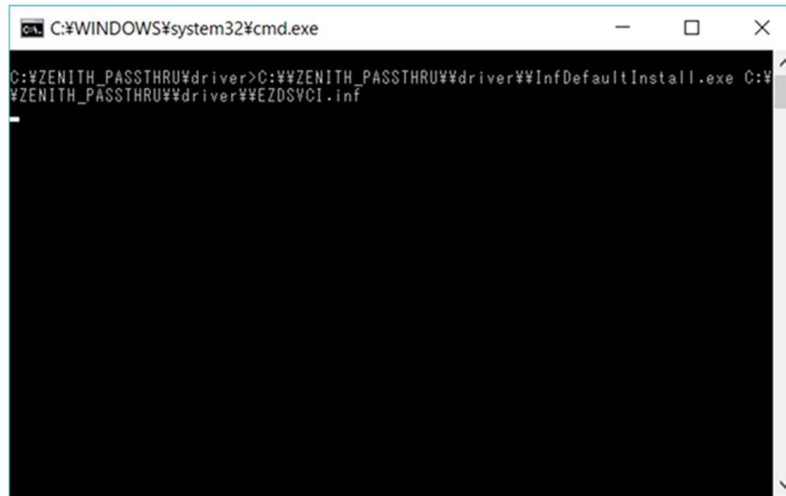
- E. [Install]を押します。



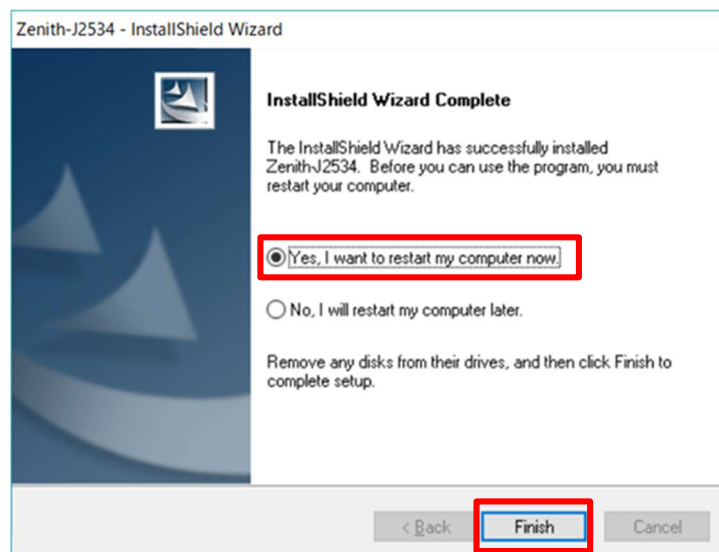
- F. 下図のポップアップ画面が表示されたらインストールは完了です。
[OK]を押して終了します。



※インストールの際、下図のようなコマンドプロンプトが起動する場合があります、上図の[OK]を押せば画面は消えます。



- G. PC の再起動を促すメッセージが表示されます。[Yes, I want to restart my computer now]を選択し、[Finish]を押します。
再起動後、ドライバーが使用可能になります。



本機を使用しての操作方法

1. ホーム画面から[J2534]を選択します。



2. 通知メッセージが表示されますので、実行する場合は[許可]を選択します。



3. 画面が遷移するまでお待ちください。

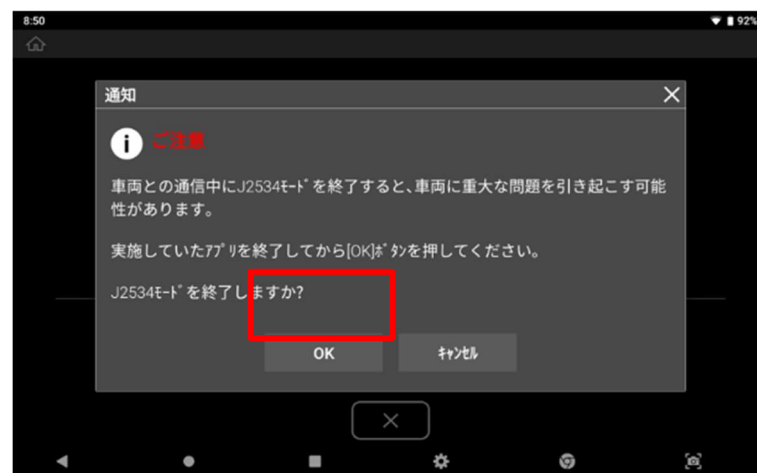


4. 「作動中」と表示されたら、J2534 で動かすソフトをインストールしている PC と本機を USB で接続してください。接続するポートは、Z 本体の “タイプ C”（J2534 と書かれているポート）を使用してください。

※PC と接続すると、PC 画面に “ZENITH” と表示される場合があります



5. J2534 モードを終了する際は、[X]を押します。その後、注意事項が表示されますので[OK]を押して終了します。



6. J2534 モードからの切り替えが完了すると、通常のホーム画面に戻ります。

第 8 章 アップデートおよび開発ログ

8.1. アップデート

● アップデート項目

ホーム画面から[アップデート]を選択すると、ソフトウェアの項目が表示されます。



本製品の登録が完了していると、下図のようにソフトウェア項目一覧が表示されます。



① ソフトウェアの有効期限

国産乗用車	2022.07.08
国産トラック・バス	2022.07.08
輸入乗用車	2022.07.08

それぞれのソフトウェアの有効期限は、画面左上に表示されます。

② アップデート情報

画面右上の[アップデート情報]を選択すると、アップデート内容詳細を確認することができます。



③ ソフトウェアのアップデート

ソフトウェアアップデート				
国産乗用車	2022.07.08			
国産トラック・バス	2022.07.08			
輸入乗用車	2022.07.08			
メーカー	現在のバージョン	アップデートバージョン	必要な容量	
ソフトウェア	21.08.30.03	21.09.02.01	140.92	
国産乗用車	21.06.18.01	21.06.24.01	151.94	
国産トラック・バス	21.06.18.01	21.06.24.01	33.45	
輸入乗用車	21.06.18.01	21.06.24.01	604.01	

A. [NEW]マーク

自動車メーカーから新しいソフトウェアのバージョンがリリースされると、項目の横に[NEW]マークが表示されます。

ソフトウェア	NEW
国産乗用車	NEW
国産トラック・バス	NEW
輸入乗用車	NEW

B. アップデート開始

アップデートをおこないたいソフトウェアの項目を選択し、[F1 アップデート]を選択します。

C. ユーザー認証

ソフトウェアのアップデートをおこなうには、事前のユーザー認証が必要です。ユーザー認証画面が表示されますので、ID とパスワードを入力してください。次回以降の ID・パスワード入力手順を省きたい場合は、「ID・パスワードを記憶する」するに「✓」マークを入れてください。どちらも入力完了したら[ユーザー認証]を選択してください。



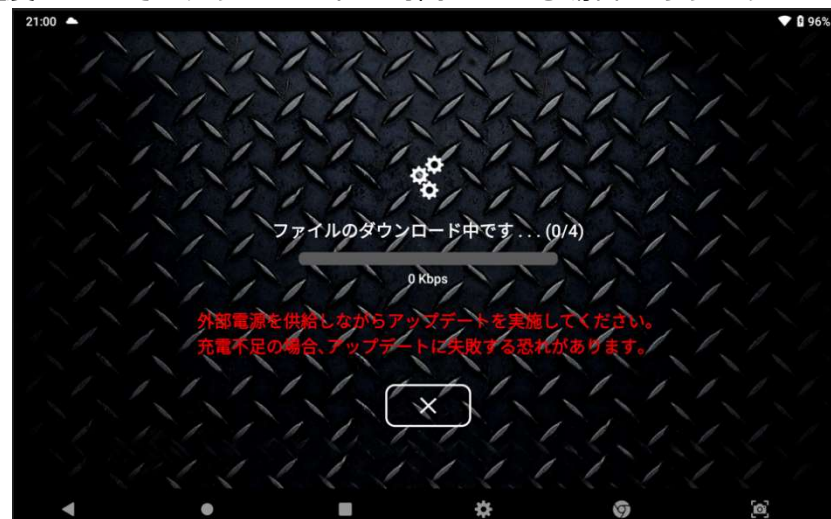
D. 外部電源への接続

ID・パスワードが正しく入力されると、外部電源への接続を促すポップアップ画面が表示されます。ソフトウェアのダウンロード中は、AC/DC アダプターを使用してコンセントから電源を供給するなどして、安定した電源供給状態にしてください。



E. ソフトウェアダウンロード

[OK]を選択すると、ソフトウェアのダウンロードを開始します。インターネットの回線速度によってはダウンロードに時間がかかる場合があります。



8.2. 開発ログ



開発ログの目的

本機と車両の通信状態を記録する機能です。

主に、車両との通信ができない・診断内容に不備があるなど、本機側の不具合が疑われる通信情報を記録して弊社宛に送信します。その情報をもとに弊社でデータの分析をおこない、ユーザーへ回答いたします。

開発ログの取得方法

上記の不具合を開発ログとして取得するには、以下の手順を参照してください。

※トヨタのシステムサーチでは開発ログを取得することはできません

A. 開発ログモードへの移行

[開発ログ]選択すると、開発ログモードに移行します。



[開発ログ]ボタンは、車種選択・システム選択画面で選択できます。システムを選択して診断メニューが表示されると、[開発ログ]ボタンは使用できなくなります。



[開発ログ]を選択するとポップアップ画面が表示され、[開発ログ 記録開始]または[開発ログ一覧]を選択できます。



開発ログ 記録開始

ログの記録を開始します。本機がログを取得している間、このボタンは[開発ログ 記録終了]に変わります。

開発ログ一覧

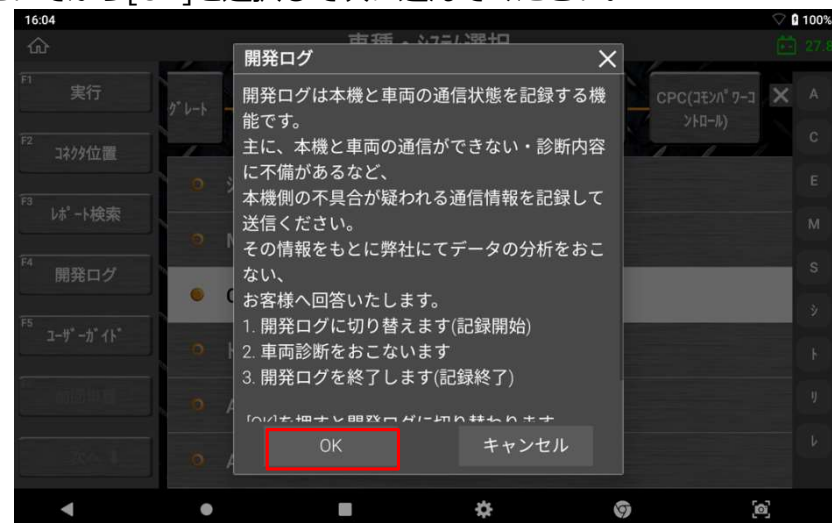
記録した開発ログを選択して弊社へ送信します。

送信したいログのチェックボックスに✓を入れ、[送信]を押します。

同様に、削除したいログのチェックボックスに✓を入れ、[削除]することもできます。



開発ログに関する簡単な説明がポップアップ画面で表示されますので、よく読み取っていただきから[OK]を選択して次に進んでください。



B. 不具合を再現する

開発ログの記録が開始されると、画面左上にアイコンが表示されます。分析を依頼したい通信を再度実行してください。

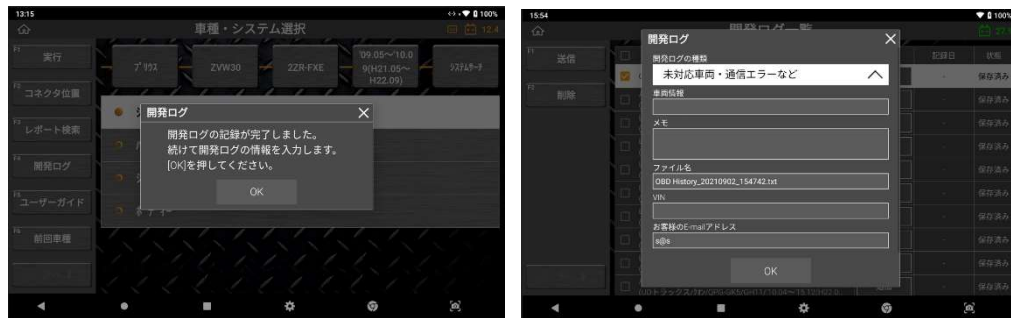


C. 開発ログ 記録終了

通信が完了したら[開発ログ]を選択し、[開発ログ 記録終了]を選択してください。



確認のためのポップアップ画面が表示されますので、[OK]を選択してください。



開発ログ送付のための入力画面が表示されます。開発ログの種類や、メモ、ファイル名、Eメールアドレスなどを入力して[OK]を選択すると開発ログモードは終了します。開発ログを弊社に送信するには、本機をインターネットに接続した状態で[開発ログ] → [開発ログ一覧]を選択してください。

※メールアドレスを正確に入力しないとエラーメッセージが表示されます。[OK]を選択すると再度入力画面が表示されますので、もう一度入力し[OK]を選択してください。

第9章 保存データ

9.1. データの保存

● スクリーンショットの保存

スクリーンショット機能は、データ表示・グラフなどの画面をキャプチャし、後で確認・分析できます。

現在の画面をキャプチャする際は、Android システムの基本機能である画面右下の [スクリーンキャプチャ] を押します。



画面キャプチャをすると自動的に画像編集アプリケーションが起動し、指や付属のタッチペンで簡単なメモができます。



編集が完了したら画面右上の[保存]アイコンを選択してください。



ファイルの保存先を確認し、ファイル名を変更したい場合は任意のファイル名を入力し、[OK]を選択するとファイルは保存されます。画面キャプチャは内部メモリーに画像ファイルとして保存されます。



● ファイル形式

画面キャプチャは PNG 形式の画像ファイルとして保存され、データ表示機能で保存したレコードファイルは GTR 形式のスプレッドシートファイルとして保存されます。

- 画面キャプチャ：*.PNG 画像ファイル
- ライブデータ：*.GTR スプレッドシートファイル



GTR

PNG

9.2. データの読み込み

● ファイルパス

ホーム画面または各自動車メーカーの診断メニューから[保存データ]を選択すると、内部メモリのフォルダ構造が以下のように表示されます。



保存されたデータのファイルパスは、メーカー選択画面から車両を選択した順番と同じ構造になっています。

例) 内部メモリ > メーカー名 > 車種名 > 型式 > 年式 > システム名 > 日付

● 画像ファイル

保存したファイル一覧から PNG ファイルにチェックを入れて[表示]を選択するとファイルが表示されます。



画面右上のボタンを選択すると、ファイルを印刷または共有することができます。印刷機能の詳細については次章を参照してください。

● レコードファイル

保存したファイル一覧から GTR ファイルにチェックを入れて[表示]を選択するとテキストモードでデータが表示されます。



● 再生コントロール

[連続記録]または[選択したパラメーター記録を保存します]を使用して複数のデータ値を保存した場合は、画面左上にあるボタンを選択して保存データのサンプル数を右方向または左方向に再生できます。

[グラフ]ボタンを選択するとグラフモードに切り替わります。

コントロールボタン	説明
◀ ▶	記録したデータを巻き戻し／再生します。
グラフ	グラフモードに切り替えます。

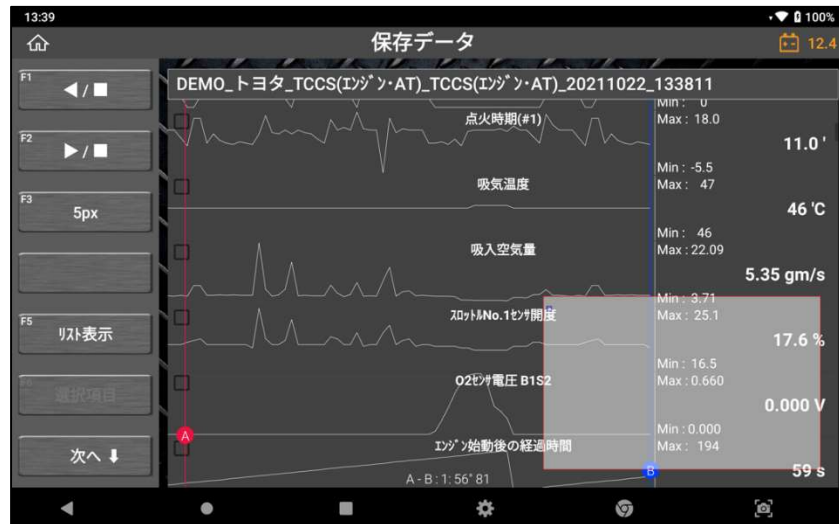
● 現在選択している値の表示

記録したデータのサンプル数を横軸、データの項目数を縦軸に表示しています。赤の四角で表示されている部分は現在表示しているサンプル数とデータ表示項目数を表します。



● グラフモード

テキストモードで[グラフ]ボタンを選択すると、データ値がグラフで表示されます。最大で 4 つまで画面に表示されます。



画面左上にあるボタンを選択して保存データのサンプル数の経過時間を右方向または左方向に再生できます。

◀ ▶	記録データを巻き戻し／再生します。
-----	-------------------

● グラフ水平サイズコントロール

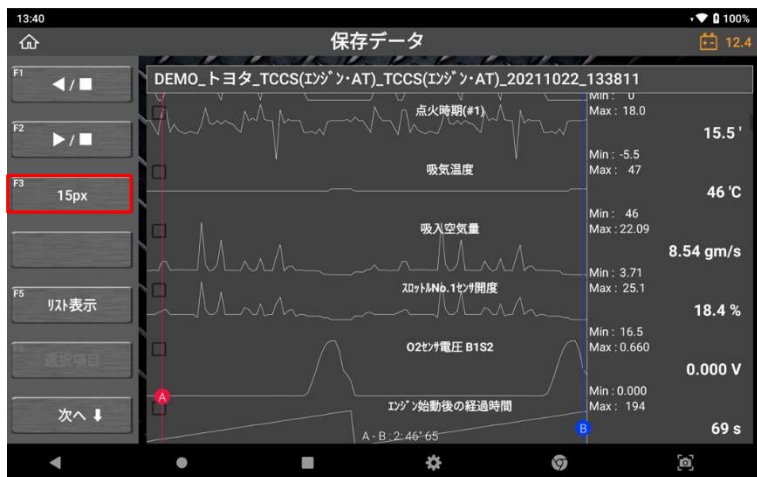
グラフまたは数字の水平サイズを変更できます。

<div data-bbox="381 1447 536 1491">15px</div>	<p>グラフのサイズはフレームあたりのピクセル数を選択して調整できます。(1px -> 5px -> 15px) ピクセル数が増えるほどグラフが大きくなります。また、逆も同様です。</p>
---	--



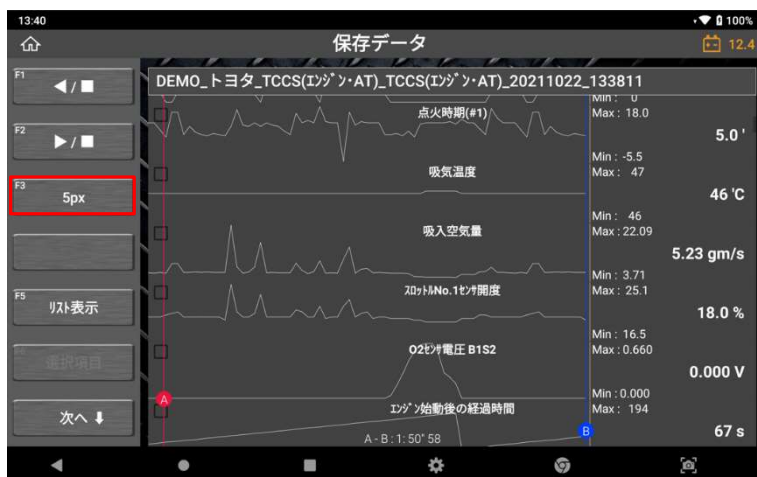
最小縮尺 : 1 フレームあたり 5 px

>> 1 フレームあたり 10px にすると、サイズが 2 倍になります。



1 フレームあたり 10px

>> 1 フレームあたり 15px にすると、縮尺が 1.5 倍になります。



最大縮尺 : 1 フレームあたり 15 px

>> 1 フレームあたり 5px に戻すと、サイズが 3 分の 1 になります。

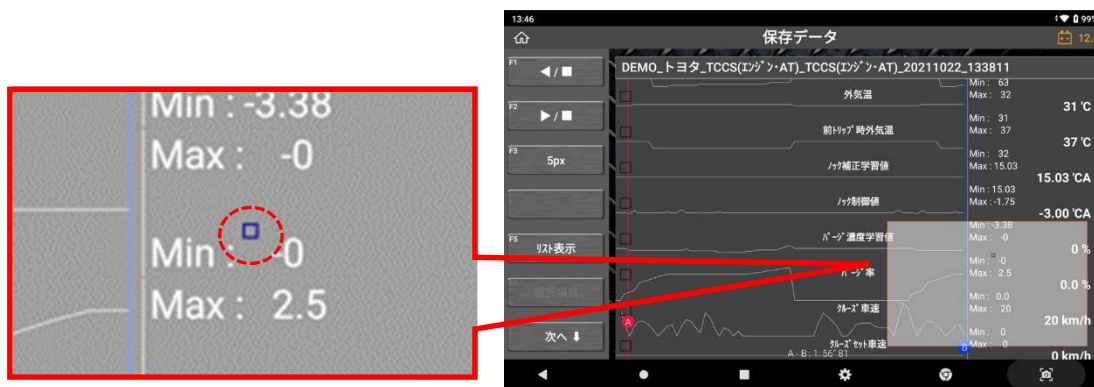
● カーソル

グラフモードでデータを再生する際に使用します。赤い点をタップしてドラッグするとカーソル A の水平方向の位置を変更できます。カーソル B の青い点も同じ操作をおこないます。カーソル A と B 間の時間差が画面左側に表示されます。



● 現在のフレーム表示

データの巻き戻し／再生している際、現在のフレームの水平位置が画面右下に表示されます。



● スプレッドシートモード

グラフモードから [リスト表示] を選択すると、表示モードはテキストモードに変わります。最初はデータの読値がスプレッドシート形式で表示されます。

➤ スプレッドシート形式

スプレッドシート形式では、データ項目名は横に表示され、データ値はフレームごとに縦に積上げ表示されます。左右にスクロールしてデータ項目名を探することができます。上下にスクロールすると経過時間に沿ってフレーム間を移動できます。

No	トリガエンジンランプ	F/B実施状態 B1	エンジン負荷値 (%)	エンジン冷却水温 (°C)	空燃比F/B値 B1 (%)
0	OFF	4 Rear Sensor	60.0	70	0.0
1	OFF	4 Rear Sensor	67.1	70	0.8
2	OFF	4 Rear Sensor	34.9	71	-5.5
3	OFF	4 Rear Sensor	37.3	72	-3.1
4	OFF	4 Rear Sensor	39.6	73	-2.3
5	OFF	4 Rear Sensor	47.8	73	-3.1
6	OFF	4 Rear Sensor	47.8	73	-1.6
7	OFF	4 Rear Sensor	56.5	74	0.0
8	OFF	4 Rear Sensor	65.9	75	3.1
9	OFF	4 Rear Sensor	51.0	75	-3.9

スプレッドシートを移動する際は、画面右下に表示されているマップで現在のフレーム位置が確認できます。

No	エンジン冷却水温 (°C)	空燃比F/B値 B1 (%)	空燃比F/B学習 B1 (%)	エンジン回転数 (rpm)	車両スピード (km/h)	点検
20	80	-3.9	-3.1	967	14	
21	81	-5.5	-3.1	770	3	
22	81	5.5	-6.2	1448	0	
23	82	0.0	-3.1	802	8	
24	82	-2.3	-3.1	810	10	
25	83	-1.6	-3.1	759	8	
26	83	-0.8	-3.1	724	5	
27	83	0.0	-3.1	745	5	
28	84	3.1	-7.8	1073	3	
29	85	-3.9	-3.1	825	5	

➤ トリガ移動

データ表示で連続記録の[停止]機能を使用してデータ値にトリガーをマークしていた場合は、[トリガ移動]ボタンを選択するとトリガーを設定した時のフレームに移動することができます。

➤ 印刷

スプレッドシートは接続しているプリンターを使用して印刷するか、または PDF ファイルに変換できます。[指定サンプル印刷]または[全サンプル印刷]を選択できます。



読み取ったデータの 1 サンプル(フレーム)のみ印刷したい場合や、記録したデータの一部を印刷したい場合は、[指定したサンプル印刷]を選択します。ドロップダウンで印刷するサンプル数を指定することができます。

また、[全サンプル印刷]を選択すると、記録したデータ全体を印刷することができます。



プリンターの設定方法や印刷機能の詳細については次章を参照してください。

➤ テキストモード

データ表示機能で保存したデータを数値で表示します。

9.3. 外部メモリへのバックアップ

保存データで[外部メモリにバックアップ]を選択すると、本機の内部メモリに保存されている画像ファイルやデータファイルを外部メモリに転送し、バックアップします。

● 外部ストレージデバイス

micro SD カードは本機に直接挿入できます。また、USB ポートから外部ストレージデバイスを使用することもできます。外部ストレージデバイスのファイルシステムが FAT32 形式であることを確認してください。

micro SD カードを挿入したり、USB ポートから外部ストレージデバイスを接続したりすると、本機が認識し、[保存データ]内のフォルダに下図のように表示されます。





ファイルを転送する前に外部ストレージデバイスを取り外したり、デバイスが正しく認識されていない状態で[外部メモリにバックアップ]を選択したりすると、エラーメッセージが表示されます。その場合ファイルの転送はできません。



9.4. データの印刷

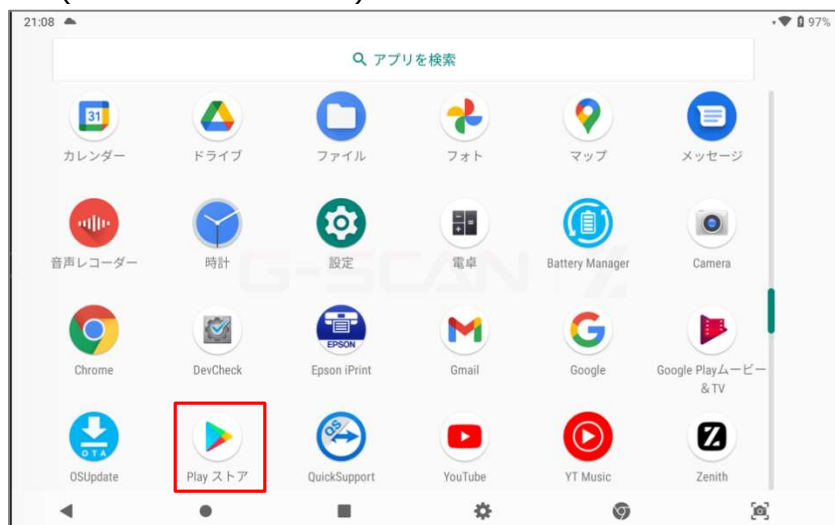
本機の内部ストレージに保存されている画像、記録データ、診断レポートをワイヤレスプリンターで印刷できます。

● プリンターの設定

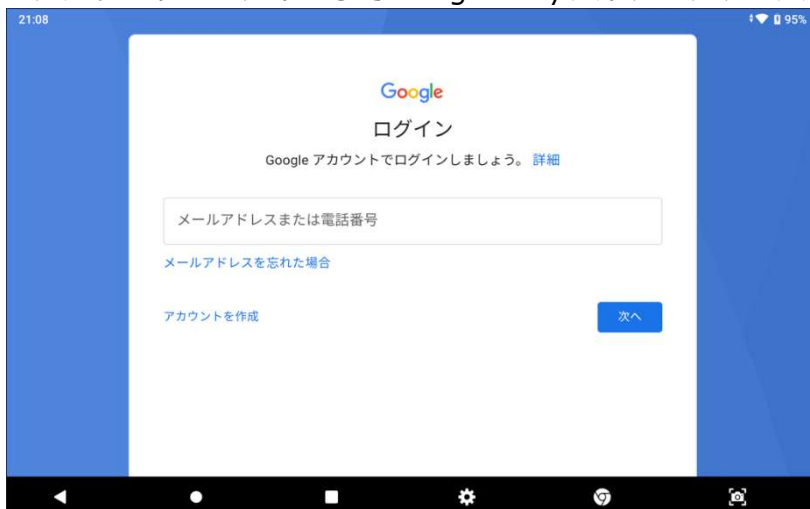
- A. 使用したいプリンターの“プリンタードライバー”を本機にインストールしてください。

*プリンタードライバーは、本機に対応している機種以外はインストールできません。非対応機種のプリンタードライバーはパフォーマンスの低下やソフトウェアエラーを引き起こす可能性があります。不正なアプリケーションをダウンロードした場合、製品保証が無効になる場合があります。

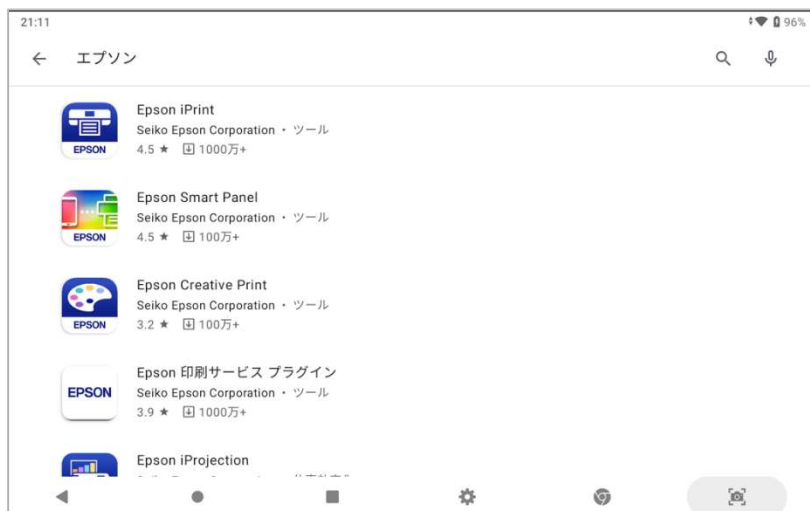
- 例 (EPSON のプリンター):



B. Google アカウントにログインして Google Play ストアにアクセスします。



C. アカウントにログイン後、プリンタードライバーを検索してください。



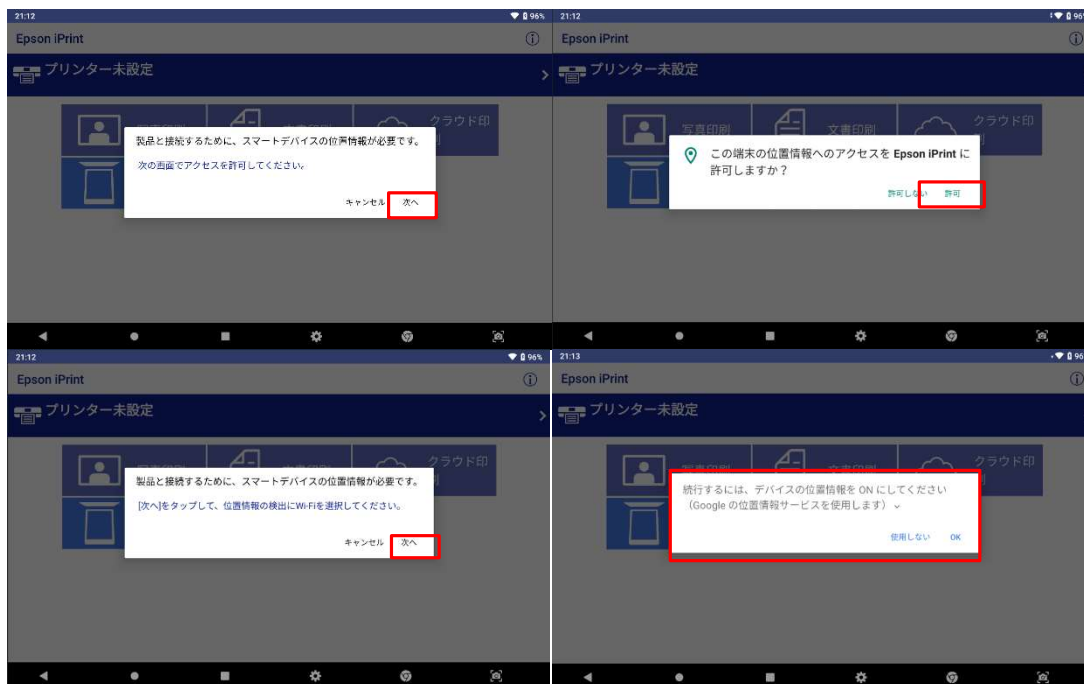
D. プリンタードライバーをダウンロードします。



- E. インストール後、ホーム画面にプリンターのアイコンが表示されたら、アプリケーションを起動してください。



- F. 写真、メディア、ファイルへのアクセスを許可して、プリンターに接続してください。



- G. プリンターに、本機との接続確認メッセージが表示されていることを確認してください。（プリンターの機種によって異なりますが）[OK]を押してください。
- その後、本機上に接続したプリンターのデバイス名が表示されていることを確認してください。



● 画像の印刷

ホーム画面にある[保存データ]または診断メニューの[保存データ表示]から、保存した画像を印刷できます。本説明書ではZアプリケーションでの印刷方法のみご説明します。

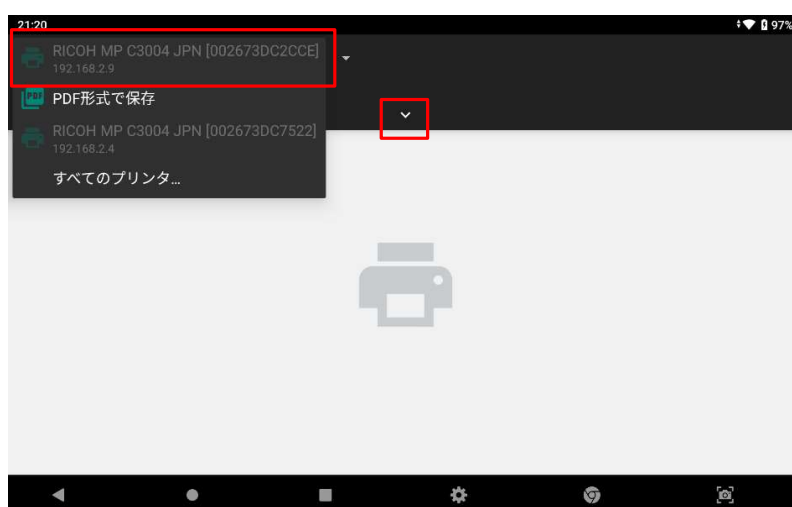
[保存データ]（または[保存データ表示]）を選択して、印刷したい画像データを選択してください。



診断中に画面キャプチャをしたりデータ記録をおこなうと、[記録データ]と[内部メモリ]フォルダに保存されます。画面キャプチャ画像は PNG 形式で保存されます。画像を選択して[開く]を選択すると画像が表示されます。



上部右端のオプションアイコンを選択した場合、ドロップダウンメニューが表示され、下図のような印刷オプションを選択できます。[印刷]を選択すると、画像の印刷を開始します。



プリンターが本機に正しく接続されている場合、上図のように画面左上にプリンターのデバイス名が表示されます。

画面中央の[V]を押すと、用紙サイズやカラー、用紙の向き、その他の印刷設定を変更できます。その後、画面右の印刷アイコンを選択すると、画像を印刷します。



● 記録データの印刷

[データ表示]でデータの記録をおこなった後、それぞれのフレームで記録したデータ項目を印刷できます。記録データの検索方法については[第9章 保存データ]を参照してください。



画面左側の[記録データ]および[内部メモリ]のフォルダに、診断時に撮影した画像または記録データを格納するフォルダが作成されます。[データ表示]で記録されたデータはGTR形式で保存されます。ファイルを選択し、[表示]を選択するとデータを確認できます。



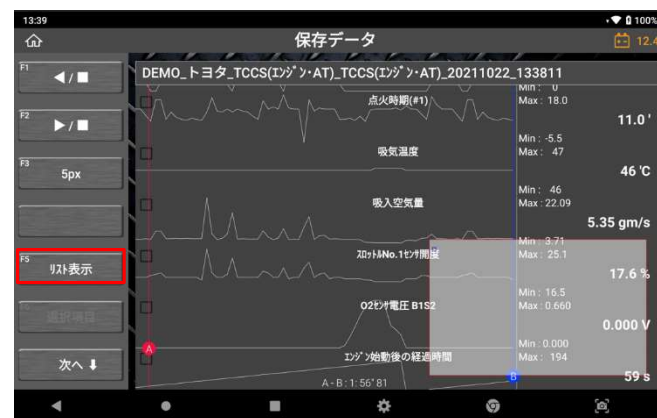
記録データを印刷するには、[グラフ]を選択してスプレッドシート形式のテキストモードに切替え、[リスト表示]を選択します。

記録したすべてのサンプルはスプレッドシート形式で順番に表示されます。1 列目の [No] はフレーム数を表し、記録開始からの経過時間順に表示されます。

保存データ

DEMO_トヨタ_TCCS(エンジン・AT)_TCCS(エンジン・AT)_20211022_133811

項目名(1/130)	現在値	単位	最小値	最大値
<input type="checkbox"/> ファイアリング	OFF	-	-	-
<input type="checkbox"/> F/R実施状態 B1	4 Rear Sensor	-	-	-
<input type="checkbox"/> エンジン負荷値	60.0	%	32.9	82.4
<input type="checkbox"/> エンジン冷却水温	70	°C	68	89
<input type="checkbox"/> 空燃比F/R値 B1	0.0	%	-5.5	6.2
<input type="checkbox"/> 空燃比F/R学習 B1	-7.8	%	-7.8	-2.1
<input type="checkbox"/> エンジン回転数	1188	rpm	724	1625
<input type="checkbox"/> 車両速"ト"	4	km/h	0	21
<input type="checkbox"/> 点火時期(#1)	17.0	°	-5.5	18.0
<input type="checkbox"/> 吸気温度	46	°C	46	47
<input type="checkbox"/> 吸入空気量	7.20	gm/s	3.71	22.09
<input type="checkbox"/> 20211022_133811	17.6	%	16.5	25.1



[印刷]を選択して次のステップに進むと、下図のように印刷オプションを選択できます。

保存データ

DEMO_トヨタ_TCCS(エンジン・AT)_TCCS(エンジン・AT)_20211022_133811

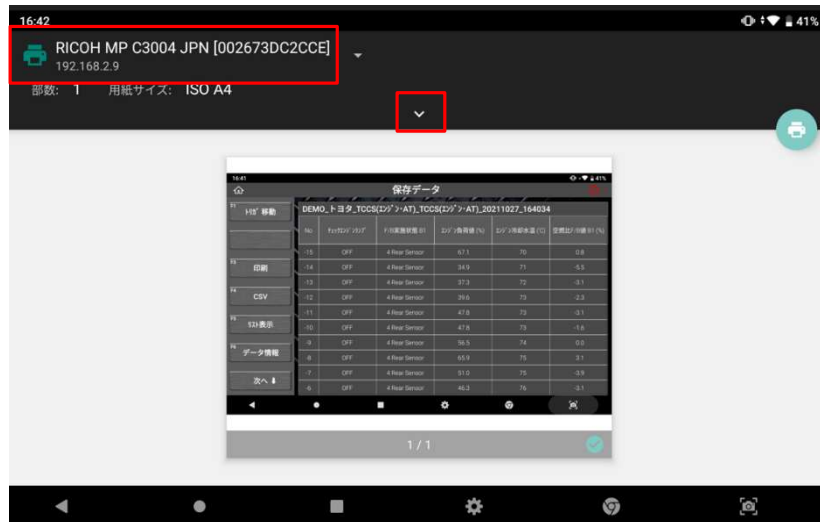
No	エンジン・AT	F/R実施状態 B1	エンジン負荷値 (%)	エンジン冷却水温 (°C)	空燃比F/R値 B1 (%)
0	OFF	4 Rear Sensor	60.0	70	0.0
1	OFF	4 Rear Sensor	67.1	70	0.8
2	OFF	4 Rear Sensor	34.9	71	-5.5
3	OFF	4 Rear Sensor	37.3	72	-3.1
4	OFF	4 Rear Sensor	39.6	73	-2.3
5	OFF	4 Rear Sensor	47.8	73	-3.1
6	OFF	4 Rear Sensor	47.8	73	-1.6
7	OFF	4 Rear Sensor	56.5	74	0.0
8	OFF	4 Rear Sensor	65.9	75	3.1
9	OFF	4 Rear Sensor	51.0	75	-3.9

印刷

指定サンプル印刷

全サンプル印刷

すべてのページを印刷する場合は[全サンプル印刷]を、印刷するサンプルの範囲を入力する場合は[指定サンプル印刷]を選択してください。



画面中央の[V]を押すと、用紙サイズやカラー、用紙の向き、その他の印刷設定を変更できます。その後、画面右の印刷アイコンを選択すると、画像を印刷します。

[全サンプル印刷]を選択すると、記録されているサンプルを順番に印刷します。

第 10 章 診断レポート

10.1. 診断レポート機能

診断レポートは、修理前スキャン結果および修理後スキャン結果を含むレポートを作成します。また、本機の内部メモリに PDF ファイルとして保存できるだけでなく、Bluetooth や Wi-Fi を使った印刷・任意のメールアドレスへの送信ができます。



上図のようにホーム画面で[診断レポート表示]を選択すると、過去に保存した診断レポート一覧が表示されます。



10.2. 診断レポートを作成する

診断レポートは以下の順序で作成します。



● 修理前スキャン

診断レポートはホーム画面の[車両診断]→[システムサーチ]実行後に作成できます。詳細については、[第4章 メイン機能]の[4.2. システムサーチ]および[4.3. 自己診断]を参照してください。

[システムサーチ]では、車両と通信できるすべてのシステムを検索し、各システムで検出されている故障コード数を表示します。



[システムサーチ]完了後、[自己診断]を選択すると検出されたシステムと故障コードが一覧で表示され、右上の[レポート作成]ボタンが有効になります。



[レポート作成]を選択すると、過去に保存した診断レポートがある場合は一覧で表示されます。

新しく診断レポートを作成する場合は、[+新レポート作成]を選択します。



診断レポートを作成する場合は、ヘッダーに表示される車両名、会社情報、顧客情報などを入力する必要があります。

➤ 車両名

自動車メーカー・車種・型式・年式は、システムサーチで選択したものが自動で入力されます。必要であれば車両名を編集できます。

➤ 会社情報

会社名・住所・整備士名・電話番号・ファックス番号・メールアドレスは、すでに設定したユーザー情報から自動で読み込まれます。

必要であれば各情報を編集できます。

- **日付**
自動で入力されます。
- **顧客情報**
必要であれば手動で入力します。
- **VIN 自動読取**
車両から VIN を読み取る場合は、[自動読取]を選択してください。
※注意：車両通信前のみ利用可能

15:53 診断レポート 27.8

車両診断レポート

車両名
FIAT/インターナショナル/オールモデル/システム選択

会社名 顧客名
S@S

住所 ナンバープレート

整備士名 VIN 自動読取

電話番号 ファックス 年式

Eメール オドメーター
S@S

保存

入力が完了し、[保存]を選択すると新規レポートが保存されます。

16:36 診断レポート 12.2

新規追加

日付 ↓ ALL ↓

全選択 印刷 Eメール PDFとして保存

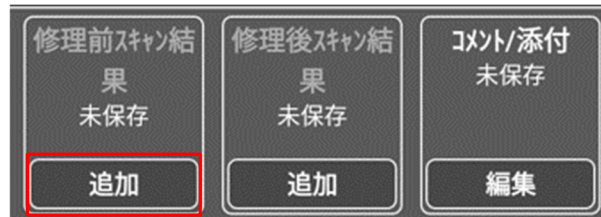
+ 新規レポート作成

<input type="checkbox"/>	デモメーカー/トヨタ/TCCS(エンジン・AT)	修理前ステータス 結果 未保存 追加	修理後ステータス 結果 未保存 追加	コメント/添付 未保存 編集
	顧客名 --- VIN --- ナンバープレート ---			
	2月・21・2022 16:20:40	ヘルプ・情報編集	印刷	Eメール PDFとして保存

デモソフト

デモメーカー/トヨタ/TCCS(エンジン・AT) 修理前ステータス 結果 未保存 追加 | 修理後ステータス 結果 未保存 追加 | コメント/添付 未保存 編集 |

作成した診断レポートでスキャン結果を保存するには[修理前スキャン結果]の[追加]を選択します。



[追加]を選択すると確認画面が表示されるので[OK]を選択します。



修理前のスキャン結果が、[未保存]状態から結果を保存した日時に変わります。



以前保存した修理前のスキャン結果を上書きしたい場合は、[システムサーチ]→[レポート作成]を再度おこない、[追加]を選択してください。

● 修理後スキャン結果の保存

修理後にスキャン結果を保存するには、診断レポート画面を表示して[修理後スキャン結果]の[追加]を選択します。

修理前スキャン結果 2月-21-2022 13:30:20 追加	修理後スキャン結果 未保存 追加	コメント/添付 未保存 編集
---	------------------------	----------------------

修理後のスキャン結果が、[未保存]状態から結果を保存した日時に変わります。
[追加]を選択すると、以前保存した修理後スキャン結果を上書きできます。

修理前スキャン結果 2月-21-2022 13:30:20 追加	修理後スキャン結果 2月-21-2022 13:30:32 追加	コメント/添付 未保存 編集
---	---	----------------------

➤ コメントの入力およびファイルの添付

[コメント/添付]の[編集]を選択すると、診断レポートへのコメント入力やファイルの添付ができます。

修理前スキャン結果 2月-21-2022 13:30:20 追加	修理後スキャン結果 2月-21-2022 13:30:32 追加	コメント/添付 未保存 編集
---	---	----------------------

内部メモリ内の任意の画像にチェックを入れて[OK]を押すと、診断レポートに画像が添付されます。



コメントおよび添付ファイルを確認して[OK]を押してください。



[コメント/添付ファイル]の下に、ファイルやコメントを追加した日時が表示されます。

10.3. その他機能



ボックス内の[↑]を押すか、該当レポート枠内を押すと追加機能([ヘッダー情報編集]、[印刷]、[Eメール]、[PDFとして保存])が表示されます。



診断レポートのヘッダー情報の編集、印刷、メール送信、PDF形式での保存ができます。

● ヘッダー情報編集

[ヘッダー情報編集]を選択するとポップアップが表示され、レポート上部に表示されるヘッダー情報を入力・編集できます。入力しない場合は、会社名、住所、整備士名、電話番号、Eメールアドレスなどの情報がすでに設定したユーザー情報から自動で読み込まれます。

車両名		デモソフト/デモメーカー/トヨタ/CCS(エンジン・AT)	
会社名	顧客名		
インターサポート	田中様		
住所	ナンバープレート		
茨城県水戸市城南1-6-39	水戸550 わ0123		
整備士名	VIN		
山田	ZVW51-123456	自動読取り	
電話番号	ファクス	年式	
0293038021	0293038022	令和2年12月	
Eメール	ドメイン		
s@s	23456.7		
保存			

印刷時、入力したヘッダー情報がレポート上部に表示されます(画像はプレビュー画面です)。

(10月-25-2021 21:26:15) ZVW51-123456 インター デモソフト/デモメーカー/トヨタ/TCCS(エンジン・AT) 1/3

ZⅡ診断レポート

10月-25-2021 21:26:15
SA000518

S@S
茨城県水戸市城南1-6-39
0293038021
サポート
S@S
ファックス 029308022

顧客名 インター

車両情報

デモソフト/デモメーカー/トヨタ/TCCS(エンジン・AT)

VIN	ZVW51-123456	年式	平成30年1月
ナンバープレート	水戸551 わ5525	オドメーター	987654.3
車両型式			

1/3 修理前スキャン結果 / 10月-25-2021 21:29:10

● 印刷

[印刷]ボタンを選択するとメニューが表示され、レポートとして印刷したい項目を選択できます。プリンターに接続した状態で[印刷]を選択すると、印刷機能画面に移動し、診断レポートを印刷できます。



➤ ページ区切り追加

チェックを入れた場合、選択した項目ごとに別々のレポートを印刷し、それぞれの上部にヘッダー情報が追加されます。チェックを入れない場合、選択した項目すべてがページ区切りなしの 1 つのレポートとして印刷され、ヘッダー情報は最初のページのみ印刷されます。

➤ プレビュー

印刷前に[ヘッダー情報]、[修理前スキャン結果]、[修理後スキャン結果]、[コメント]、[添付資料]を確認できます。

(10月-25-2021 21:26:15) ZVW51-123456 インター デモソフト/デモメーカー/トヨタ/TCCS(エンジン・AT)
1/3

ZII 診断レポート
10月-25-2021 21:26:15
SA000518

S@S
茨城県水戸市城南1-6-39
0293038021
サポート
S@S
ファックス 029308022

顧客名 インター
車両情報
デモソフト/デモメーカー/トヨタ/TCCS(エンジン・AT)

VIN ZVW51-123456
ナパ-プレート 水戸551 わ5525
車両型式

年式 平成30年1月
排気量 987654.3

1/3 修理前スキャン結果 / 10月-25-2021 21:29:10

ヘッダー情報

修理前スキャン結果 / 10月-25-2021 21:29:10

診断概要

スキャンされたシステム 1 ■ 全故障コード数 21
システム(故障コードあり) 1
システム(故障コードなし) 0

システム(故障コードあり)

TCCS(エンジン・AT) 21 検出数:**

P0095 吸気温センサ系統(インマニ)
P0607 ECU内部異常2(STP入力回路系) ECU内部異常2(キルセル回路異常)
P0005 レギュレータ遮断弁系統
P0006 遮断弁系統(Low)
P0007 遮断弁系統(High)

1/2

修理前スキャン結果

修理後スキャン結果 / 10月-25-2021 21:29:41

診断概要

スキャンされたシステム 1 ■ 全故障コード数 21
システム(故障コードあり) 1
システム(故障コードなし) 0

システム(故障コードあり)

TCCS(エンジン・AT) 21 検出数:**

P0095 吸気温センサ系統(インマニ)
P0607 ECU内部異常2(STP入力回路系) ECU内部異常2(キルセル回路異常)
P0005 レギュレータ遮断弁系統
P0006 遮断弁系統(Low)
P0007 遮断弁系統(High)

1/2

修理後スキャン結果

コメント

テスト

1 / 1

コメント

添付

診断レポート

車両診断レポート

車両名
デモソフト/デモメーカー/トヨタ/TCCS(エンジン・AT)

会社名
インターサポート

顧客名
田中様

住所
茨城県水戸市城南1-6-39

ナンバープレート
水戸550 わ0123

整備士名
山田

VIN
ZVW51-123456

電話番号
0293038021

ファクス
0293038022

年式
令和2年12月

Eメール
s@s

オドメーター
23456.7

自動読取り

保存

1 / 1

添付ファイル

● Eメール

本機をインターネットに接続し、診断レポートをEメールで送信できます。

16:36 診断レポート 12.2

日付 ↓ ALL ↓

□ 全選択 印刷 Eメール PDFとして保存

+ 新レポート作成

□	デモメーカー/トヨタ/TCCS(エンジン・AT)	修理前ステータス 結果 未保存	修理後ステータス 結果 未保存	コメント/添付 未保存	×
	顧客名 ---	追加	追加	編集	
	VIN ---				
	ナンバープレート ---				
デモソフト	2月・21-2022 16:20:40	ヘルプ・情報編集	印刷	Eメール	PDFとして保存

□ デモメーカー/トヨタ/TCCS(エンジン・AT) 修理前ステータス 修理後ステータス コメント/添付

[Eメール]を選択するとメニューが表示され、レポートに含めたい項目を選択できます。[ページ区切り追加]にチェックを入れた場合、レポートは各項目ごとに個別で保存され、それぞれ上部に同じ内容のヘッダー情報が追加されます。

Eメールアドレスを入力して[送信]を選択すると完了です。

※メールアドレスを正確に入力しないとメッセージが表示されます。[OK]を選択すると上の画面が表示されますので、もう一度入力し[OK]を選択します。



● PDF 形式で保存

診断レポートを PDF ファイル形式で保存できます。下図のように[PDF として保存]を選択してください。



[PDF として保存]を選択すると、Eメールと同様のメニューが表示されるので、チェックを入れるとレポートに含める項目を選択できます。[ページ区切り]にチェックを入れると、上部に同じヘッダー情報が追加されたレポートが項目ごとに保存されます。その後、[保存]を選択します。



任意のファイル名を入力し[OK]を押すと、診断レポートを PDF ファイルとして保存します。

第 11 章 付録

A.1. Z の期限付き保証

無料修理規定

1. 本規定は本製品に同梱されている保証書裏面に、シリアルナンバーが当社により記入されている製品のうち、正しくユーザー登録されている場合にのみ有効です。
2. 取扱説明書、添付ラベル等の注意書に従った使用状態で保証期間内に故障した場合には、無料修理をさせていただきます。
3. 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、お買い上げの販売店または、当社にご連絡ください。なお、お買い上げの販売店または当社にご持参いただくに際しての諸費用及び、発送時の費用はお客様にご負担願います。
4. 保証期間内でも次の場合には有料修理となります。
 - イ) 使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷
 - ロ) お買い上げ後の持ち運びの際の落下等による故障および損傷
 - ハ) 火災、地震、水害、落雷、その他天災地変および公害、塩害、ガス害（硫化ガスなど）、異常電圧、指定外の使用電源（電圧、周波数）などによる損傷
 - 二) 消耗部品の損耗交換の場合
 - ホ) 電池などの損耗に起因する故障
 - ヘ) 保証書の提示がない場合
 - ト) 保証書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合あるいは字句を書き替えられた場合
5. 本製品の故障またはその使用上生じたお客様の直接・間接の損害につきましては、当社はその責を負いません。
6. 保証書は日本国内においてのみ有効です。
7. 保証書は再発行しませんので大切に保管してください。

タッチペン、ストリング、ハンドストラップおよび製品に付帯している消耗品類は保証の対象となりません。

DLC メインケーブル、バッテリーは本体に含まれません。

※保証書は、記載されている期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものであり、お客様の法律上の権利を制限するものではありません。

A.2. 安全規格

● 韓国



商号 : EZDS

製品 : ZENITH Z5

モデル : ZENITHZ5

製造年月 : 2021/10/18

製造者および製造国 : EZDS / 韓国

認証番号 : R-C-2A2-ZENITHZ5

“해당 무선설비는 운용중

전파혼신 가능성이 있음”

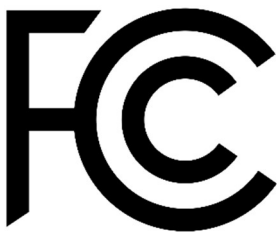
● 日本



認証番号 : R 020-210180

5GHz 帯 : 屋内使用限定

● 米国

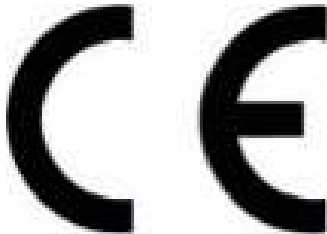


FCC ID : 2A2JFZENITHZ5

● ヨーロッパ

本製品は RED(2014/53/EU)条項に従い CE マークが貼付されています。

ここに株式会社インターサポートは、本製品が 2014/53/EU 指令の要件および関連条項を遵守していることを宣言します。



本製品の作動温度は -10°C から 40°C です。この温度を超えると機能に影響する可能性があります。

本製品は -10°C から 60°C の環境温度で保管してください。この温度を超えると機能に影響する可能性があります。

本製品には同梱されているアクセサリを使用してください。同梱以外のものを使用すると干渉信号が発信され、周囲の電気電子機器に影響し異常動作の原因になります。

本製品のワイヤレス伝導電源は関連するすべての RF 基準に従っています。低すぎたり高すぎたりする電圧および温度、または異常な操作手段などによって製品のワイヤレス伝導電源が不安定になり性能に影響する可能性があります。

本製品は同梱されているアクセサリを使用してください。本製品のワイヤレス伝導電源は関連するすべての RF 基準に従っています。同梱以外のものを使用すること、低すぎたり高すぎたりする電圧および温度、または異常な操作手段などにより製品のワイヤレス伝導電源が不安定になり性能に影響する可能性があります。

本製品のワイヤレス通信アンテナは操作距離が 20cm 以上あり、EN62311 に準拠しているので SAR テストの必要がありません。

製品のセーフティー/RF/EMC は適正な機関によりテスト済みでありパスレポートを取得していますが、異常な動作手段または条件により製品の動作停止または機能エラーの可能性があります。

周波数帯域	WLAN	2412 ~ 2472 MHz 5180 ~ 5240 MHz/5190 ~ 5230 MHz
	Bluetooth	2402 ~ 2480 MHz
出力電源	WLAN	2.4 GHz 802.11b : 18 dBm ± 2 dB 802.11g : 15 dBm ± 2 dB 802.11n_HT20 : 15 dBm ± 2 dB 802.11n_HT40 : 15 dBm ± 2 dB 5 GHz 802.11a : 17 dBm ± 2 dB 802.11n_HT20 : 16 dBm ± 2 dB 802.11n_HT40 : 16 dBm ± 2 dB
	Bluetooth	7.5 dBm ± 2 dB
	Bluetooth LE	7 dBm ± 2 dB

本装置は FCC 規則の第 15 部に準拠しています。動作は以下の条件に従います。

- (1) 本装置は電磁電波障害を引き起こす可能性がない。
- (2) 本装置は、望まない動作を生じさせる干渉を含め受信したいかなる干渉を受入れなければならない。

注意：メーカーによって承認されていない変更または改造により、本体を操作するユーザーの権利は無効になります。本装置はテスト済みであり、FCC 規則の第 15 部に従ってクラス B デジタルデバイスの制限に準拠しています。この制限事項は、住宅地域で使用した場合に生じる可能性のある電磁障害を規制するために制定されたものです。本装置は高周波エネルギーを生成し使用しています。また、高周波エネルギーを放射する可能性があるため指示に従って正しく設置しなかった場合は、無線通信に障害を及ぼす可能性があります。しかしながら、特定の設置状況において電波障害を起こさないという保証はありません。本装置がラジオやテレビの受信に障害を与えていないか判断するには、本装置の電源を入れなおしてください。受信障害が発生している場合は、以下の方法で受信障害を改善することをおすすめします。

- 受信アンテナの方向または設置位置を変える。
- 本装置と受信機の距離を離す。
- 本装置と受信機の電源系列を別の回路にする。
- 販売店やラジオ/ビデオの専門技術者に問い合わせる。

アンテナと使用者の間を最低でも 20cm 離し、アプリケーションが RE 曝露要件を満たすようにしてください。

A.3. 使用済み機器の廃棄

画像 1 の WEEE(廃電気電子機器指令)シンボルは Z 本体の裏面にあります。

廃電気電子機器を廃棄するには規制ガイドに従ってください。リチウムバッテリーを含んでいるので、廃棄にはご注意ください。



(図 1 WEEE シンボル)

古い電気電子機器の廃棄（個別の収集システムのある EU およびその他のヨーロッパ諸国で適用されます）本体またはパッケージにあるシンボルは、本製品を家庭用ごみとして扱ってはならないことを意味しています。電気電子機器のリサイクルには適切な回収場所にお持ち込みください。正しい方法により廃棄することで、本製品の不適切な廃棄により生じる可能性のある環境や人への悪影響を防ぐことができます。資源リサイクルにより天然資源の保護を促進することができます。本製品のリサイクルに関する詳細については、地方自治体、家庭廃棄物処理サービスまたは製品を購入した販売店にお問い合わせください。

A.4. 故障かな？と思ったら

本機のトラブル症状、および主なエラーメッセージの対処方法について記載します。

症状/エラーメッセージ	原因と処置要領
電源が入らない (車両に接続している時)	<ul style="list-style-type: none"> ● 本体の DLC 接続端子に DLC メインケーブルが確実に接続されているか確認してください。 ● DLC メインケーブルのカプラ、または各メーカー専用カプラと車両側の診断コネクタが確実に接続されているか確認してください。
電源が入らない (車両に接続していない時)	<ul style="list-style-type: none"> ● 本体に内蔵されているバッテリーの電池残量レベルが少なくなっている可能性があります。バッテリーの充電をおこなってください。充電方法の詳細については[1.5 Z への電源供給方法]をご参照ください。
「外部メモリが見つかりません」と表示される	<ul style="list-style-type: none"> ● 本体の外部メモリ挿入口に確実に挿入されているか確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> ➡ 正しく挿入されている場合は、外部メモリの故障の可能性があります。パソコンなどで外部メモリを認識できるか確認してください。
Wi-Fi に接続できない	<ul style="list-style-type: none"> ● Wi-Fi ルータとの距離が離れすぎている可能性があります。Wi-Fi ルータの近くで再度試してみてください。 ● Wi-Fi ルータの電源がオフになっている可能性があります。Wi-Fi ルータの電源を確認してください。 ● 機内モードになっている可能性があります。[クイック設定メニュー]([1.4. Android OS の使用方法]参照)を表示させ、機内モードがオンになっているか確認してください。 ● Wi-Fi に接続する際の SSID、セキュリティキーが間違っている可能性があります。SSID、セキュリティキーをご確認の上再度試してみてください。
タッチパネルが正常に操作できない	<ul style="list-style-type: none"> ● 本体の画面に汚れ、ゴミなどが付着していないか確認してください。汚れやゴミが付着していると

	誤作動の原因になりますので、電源を切ってから柔らかい布でよく拭取ってから使用してください。
本機を操作できない	● 電源を切った後、再度電源を入れて動作を確認してください。

その他の症状、エラーメッセージについてのお問い合わせは、本体に表示しているシリアルナンバーをご確認の上、弊社製品保守センターまでご連絡ください。

株式会社インターサポート

Tel 029-303-8021(代) Fax 029-303-8022

製品サイト <https://g-scan.jp>

本書を株式会社インターサポートの許可無く複写、複製、転載する事を禁じます。

本書に記載の製品、製品仕様、および使用方法是改良のために、将来予告なしに変更される場合があります。